

(様式第10)

厚生労働大臣
殿

令和 7 年 9 月 29 日
開設者名 国立研究開発法人国立がん研究センター
理事長 間野 博行

番 号

国立がん研究センター中央病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒104-0045 東京都中央区築地5丁目1-1
氏名	国立研究開発法人国立がん研究センター

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院

3 所在の場所

〒1040045 東京都中央区築地5丁目1-1
電話(03) 3542 - 2511

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
○	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科						有	
内科と組み合わせた診療科名等							
○	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科		4腎臓内科
	5神経内科	○	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科		6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科		8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科		16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	形成外科	2	病理診断	3	緩和ケア内科	4		5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
				578	578

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	342.0	17.9	359.9	看護補助者	36.7	診療エックス線技師	0.0
歯科医師	3.0	0.2	3.2	理学療法士	6.0	臨床検査技師	86.6
薬剤師	78.0	0.0	78.0	作業療法士	2.0	衛生検査技師	0.0
保健師	0.0	0.0	0.0	視能訓練士	1.0	その他	0.0
助産師	0.0	0.0	0.0	義肢装具士	0.0	あん摩マッサージ指圧師	0.0
看護師	702.0	23.0	725.0	臨床工学士	14.0	医療社会事業従事者	8.0
准看護師	0.0	0.0	0.0	栄養士	0.0	その他の技術員	76.9
歯科衛生士	4.0	0.0	4.0	歯科技工士	1.6	事務職員	224.5
管理栄養士	9.0	0.0	9.0	診療放射線技師	93.3	その他の職員	143.2

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	34	眼科専門医	1
外科専門医	48	耳鼻咽喉科専門医	8
精神科専門医	4	放射線科専門医	29
小児科専門医	11	脳神経外科専門医	4
皮膚科専門医	3	整形外科専門医	7
泌尿器科専門医	6	麻酔科専門医	10
産婦人科専門医	7	救急科専門医	0
		合計	172

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (瀬戸 泰之) 任命年月日 令和 6 年 4 月 1 日

令和元年4月より令和5年3月まで、特定機能病院である他院にて病院長を経験している。
令和6年4月以降は、当院の病院長として、医療事故等防止対策委員会委員長の業務に携わっている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	514.9 人	0 人	514.9 人
1日当たり平均外来患者数	1,493.4 人	63 人	1,556.4 人
1日当たり平均調剤数	3,264.9		剤
必要医師数	136		人

必要歯科医師数	2	人
必要薬剤師数	17	人
必要(准)看護師数	307	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	216.7 ㎡	鉄骨造	病床数	8 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	472.42	㎡	病床数	39 床
	[移動式の場合]	台数	0	台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	55.46	㎡		
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	662.9 ㎡	鉄骨造	(主な設備)	多項目自動血球分析装置、血液凝固測定装置、全自動免疫化学分析測定装置、全自動化学発光測定装置、生化学用自動分析装置、全自動薬物濃度測定装置、尿自動分析装置		
細菌検査室	161.04 ㎡	鉄骨造	(主な設備)	同定・薬剤感受性パネル自動測定装置、血液培養自動分析装置		
病理検査室	490.59 ㎡	鉄骨造	(主な設備)	自動染色装置、自動免疫染色装置、凍結切片作製装置、自動封入装置、密閉式自動固定包埋装置、対面作業用下降流プッシュプル型換気装置		
病理解剖室	142.15 ㎡	鉄骨造	(主な設備)	ホルマリン作製装置、解剖台		
研究室	38,936 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備)	遺伝子導入装置、ゲル撮影装置、画像診断装置、細胞解析装置		
講義室	887.03 ㎡	鉄骨造	室数	4 室	収容定員	50～300 人
図書室	376.64 ㎡	鉄筋コンクリート造	室数	1 室	蔵書数	9万 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	99 . 7 %	逆紹介率	92 . 6 %
算出根拠	A: 紹介患者の数	9,461	人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	8,788	人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	0	人
	D: 初診の患者の数	9,488	人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
山本 修一	地域医療機能推進機構 理事長 千葉大学大学院医学研 究院眼科学前教授 千葉大学医学部附属病 院前病院長	○	特定機能病院の前管理 者であり、医療に係る 安全管理に関する識見 を有する	無	1
相馬 孝博	千葉大学医学部附属病 院 医療安全担当副院長／ 医療安全管理部長		特定機能病院の医療安 全管理部門に所属し、 医療に係る安全管理に 関する識見を有する	無	1
山本 宗孝	順天堂大学医学部附属 順天堂医院 医療安全機能管理室 副室長		特定機能病院の医療安 全管理部門に所属し、 医療に係る安全管理に 関する識見を有する	無	1
田島 優子	さわやか法律事務所 弁		弁護士として政府の諮 問機関等医療問題に関 わっており、医療に係る 法律に関する識見を有 する	無	1
桜井 なおみ	一般社団法人 CSR プ ロジェクト 代表理事		患者団体の代表者であ り、医療を受ける者とし て、医療安全管理につ いて識見を有する	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
病院ホームページへ記載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数 (人)
該当なし	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	1人
術後のカペシタビン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法 小腸腺がん(ステージがⅠ期、Ⅱ期又はⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	0人
陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。)	0人
術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	22人
プローブ型共焦点レーザー顕微内視鏡による胃上皮性病変の診断 胃上皮性病変	19人
イマチニブ経口投与及びペムブロリズマブ静脈内投与の併用療法 進行期悪性黒色腫(KIT遺伝子変異を有するものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	0人
周術期デュルバルマブ静脈内投与療法肺尖部胸壁浸潤がん(化学放射線療法後のものであって、同側肺門リンパ節・縦隔リンパ節転移、同一肺葉内・同側の異なる肺葉内の肺内転移及び遠隔転移のないものに限る。)	3人
マルチプレックス遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく分子標的治療(ダブラフェニブ経口投与及びトラメチニブ経口投与の併用療法を除く。) 根治切除が不可能な進行固形がん(遺伝子プロファイリングにより、治療対象となる遺伝子異常が確認されたものに限る。)	19人
メトホルミン経口投与及びテモゾロミド経口投与の併用療法 膠芽腫(初発のものであって、テモゾロミド経口投与及び放射線治療の併用療法後のものに限る。)	0人
シクロホスファミド静脈内投与療法 成人T細胞白血病(末梢血幹細胞の非血縁者間移植が行われたものに限る。)	3人
アスピリン経口投与療法 家族性大腸腺腫症	0人
ラメルテオン経口投与療法 悪性腫瘍(六十五歳以上の患者に係るものに限る。)	119人
術前のゲムシタビン静脈内投与及びナブパクリタキセル静脈内投与の併用療法 切除が可能な 膵臓がん(七十歳以上八十歳未満の患者に係るものに限る。)	2人
先進医療の種類の合計数	13
取扱い患者数の合計(人)	188人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	
取り扱い患者数の合計(人)	0

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症		172	低ホスファターゼ症	
2	筋萎縮性側索硬化症	3	173	VATER症候群	
3	脊髄性筋萎縮症		174	那須・ハコラ病	
4	原発性側索硬化症		175	ウィーバー症候群	
5	進行性核上性麻痺		176	コフィン・ローリー症候群	
6	パーキンソン病	37	177	ジュベール症候群関連疾患	
7	大脳皮質基底核変性症	1	178	モワット・ウィルソン症候群	
8	ハンチントン病		179	ウィリアムズ症候群	
9	神経有棘赤血球症		180	ATR-X症候群	
10	シャルコー・マリー・トウス病	1	181	クルーゾン症候群	
11	重症筋無力症	16	182	アペール症候群	
12	先天性筋無力症候群		183	ファイファー症候群	
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	4	184	アントレー・ビクスラー症候群	
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／ 多巣性運動ニューロパチー	1	185	コフィン・シリス症候群	
15	封入体筋炎		186	ロスマンド・トムソン症候群	
16	クロウ・深瀬症候群		187	歌舞伎症候群	
17	多系統萎縮症	1	188	多脾症候群	
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	4	189	無脾症候群	
19	ライソゾーム病		190	鰓耳腎症候群	
20	副腎白質ジストロフィー		191	ウェルナー症候群	
21	ミトコンドリア病		192	コケイン症候群	
22	もやもや病	2	193	ブラダー・ウィリ症候群	
23	プリオン病		194	ソトス症候群	
24	亜急性硬化性全脳炎		195	ヌーナン症候群	
25	進行性多巣性白質脳症	1	196	ヤング・シンプソン症候群	
26	HTLV-1関連脊髄症		197	1p36欠失症候群	
27	特発性基底核石灰化症		198	4p欠失症候群	
28	全身性アミロイドーシス		199	5p欠失症候群	
29	ウルリッヒ病		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
30	遠位型ミオパチー		201	アンジェルマン症候群	
31	ベスレムミオパチー		202	スミス・マギニス症候群	
32	自己貪食空胞性ミオパチー		203	22q11.2欠失症候群	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		204	エマヌエル症候群	
34	神経線維腫症	5	205	脆弱X症候群関連疾患	
35	天疱瘡		206	脆弱X症候群	
36	表皮水疱症	1	207	総動脈幹遺残症	
37	膿疱性乾癬(汎発型)	2	208	修正大血管転位症	
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	10	209	完全大血管転位症	
39	中毒性表皮壊死症		210	単心室症	
40	高安動脈炎		211	左心低形成症候群	
41	巨細胞性動脈炎		212	三尖弁閉鎖症	
42	結節性多発動脈炎	1	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	
43	顕微鏡的多発血管炎		214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	
44	多発血管炎性肉芽腫症		215	ファロー四徴症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症		216	両大血管右室起始症	
46	悪性関節リウマチ	1	217	エプスタイン病	
47	パージャール病		218	アルポート症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	219	ギャロウェイ・モワト症候群	
49	全身性エリテマトーデス	10	220	急速進行性糸球体腎炎	1
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	9	221	抗糸球体基底膜腎炎	
51	全身性強皮症	1	222	一次性ネフローゼ症候群	
52	混合性結合組織病	3	223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	
53	シェーグレン症候群	529	224	紫斑病性腎炎	
54	成人発症スチル病		225	先天性腎性尿崩症	
55	再発性多発軟骨炎		226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1
56	ベーチェット病	4	227	オスラー病	
57	特発性拡張型心筋症	12	228	閉塞性細気管支炎	112
58	肥大型心筋症	14	229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	
59	拘束型心筋症	1	230	肺胞低換気症候群	
60	再生不良性貧血	13	231	$\alpha 1$ -アンチトリプシン欠乏症	
61	自己免疫性溶血性貧血	78	232	カーニー複合	
62	発作性夜間ヘモグロビン尿症		233	ウォルフラム症候群	

4 指定難病についての診療

63	免疫性血小板減少症	63	234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	
64	血栓性血小板減少性紫斑病	1	235	副甲状腺機能低下症	48
65	原発性免疫不全症候群		236	偽性副甲状腺機能低下症	
66	IgA 腎症	5	237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	
67	多発性嚢胞腎	1	238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3
68	黄色靱帯骨化症		239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	
69	後縦靱帯骨化症	3	240	フェニルケトン尿症	
70	広範脊柱管狭窄症		241	高チロシン血症1型	
71	特発性大腿骨頭壊死症	1	242	高チロシン血症2型	
72	下垂体性ADH分泌異常症		243	高チロシン血症3型	
73	下垂体性TSH分泌亢進症		244	メープルシロップ尿症	
74	下垂体性PRL分泌亢進症	1	245	プロピオン酸血症	
75	クッシング病	1	246	メチルマロン酸血症	
76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症		247	イソ吉草酸血症	
77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症		248	グルコーストランスporter-1欠損症	
78	下垂体前葉機能低下症		249	グルタル酸血症1型	
79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	2	250	グルタル酸血症2型	
80	甲状腺ホルモン不応症		251	尿素サイクル異常症	
81	先天性副腎皮質酵素欠損症		252	リジン尿性蛋白不耐症	
82	先天性副腎低形成症		253	先天性葉酸吸収不全	
83	アジソン病	2	254	ポルフィリン症	
84	サルコイドーシス	4	255	複合カルボキシラーゼ欠損症	
85	特発性間質性肺炎	13	256	筋型糖原病	
86	肺動脈性肺高血圧症	2	257	肝型糖原病	
87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症		258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	
88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
89	リンパ脈管筋腫症		260	シトステロール血症	
90	網膜色素変性症		261	タンジール病	
91	バッド・キアリ症候群	1	262	原発性高カイトミクロン血症	
92	特発性門脈圧亢進症	1	263	脳髄黄色腫症	
93	原発性胆汁性胆管炎	3	264	無βリポタンパク血症	
94	原発性硬化性胆管炎	3	265	脂肪萎縮症	
95	自己免疫性肝炎	6	266	家族性地中海熱	
96	クローン病	5	267	高IgD症候群	
97	潰瘍性大腸炎	51	268	中條・西村症候群	
98	好酸球性消化管疾患		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	4
99	慢性特発性偽性腸閉塞症		270	慢性再発性多発性骨髄炎	
100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症		271	強直性脊椎炎	1
101	腸管神経節細胞減少症		272	進行性骨化性線維異形成症	
102	ルビンシュタイン・ティビ症候群		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
103	CFC症候群		274	骨形成不全症	
104	コステロ症候群		275	タナトフォリック骨異形成症	
105	チャージ症候群		276	軟骨無形成症	
106	クリオピリン関連周期熱症候群		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
107	若年性特発性関節炎		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
108	TNF受容体関連周期性症候群		279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
109	非典型溶血性尿毒症症候群		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
110	ブラウ症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	
111	先天性ミオパチー		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		283	後天性赤芽球癆	
113	筋ジストロフィー		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		285	ファンコニ貧血	
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	
116	アトピー性脊髄炎		287	エプスタイン症候群	
117	脊髄空洞症	1	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	
118	脊髄髄膜瘤		289	クロンカイト・カナダ症候群	
119	アイザックス症候群		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

120	遺伝性ジストニア	1	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸型)	
121	脳内鉄沈着神経変性症		292	総排泄腔外反症	
122	脳表ヘモジデリン沈着症		293	総排泄腔遺残	
123	HTRA1関連脳小血管病		294	先天性横隔膜ヘルニア	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		296	胆道閉鎖症	1
126	ペリー病		297	アラジール症候群	
127	前頭側頭葉変性症		298	遺伝性膀胱炎	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎		299	嚢胞性線維症	
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症		300	IgG4関連疾患	6
130	先天性無痛無汗症		301	黄斑ジストロフィー	
131	アレキサンダー病		302	レーベル遺伝性視神経症	
132	先天性核上性球麻痺		303	アッシャー症候群	
133	メビウス症候群		304	若年発症型両側性感音難聴	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		305	遅発性内リンパ水腫	
135	アイカルディ症候群		306	好酸球性副鼻腔炎	2
136	片側巨脳症		307	カナバン病	
137	限局性皮質異形成		308	進行性白質脳症	
138	神経細胞移動異常症		309	進行性ミオクロノステんかん	
139	先天性大脳白質形成不全症		310	先天異常症候群	
140	ドラベ症候群		311	先天性三尖弁狭窄症	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		312	先天性僧帽弁狭窄症	
142	ミオクロニー欠神てんかん		313	先天性肺静脈狭窄症	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		314	左肺動脈右肺動脈起始症	
144	レノックス・ガストー症候群		315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	
145	ウエスト症候群		316	カルニチン回路異常症	
146	大田原症候群		317	三頭酵素欠損症	
147	早期ミオクロニー脳症		318	シトリン欠損症	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
150	環状20番染色体症候群		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
151	ラスムッセン脳炎		322	β -ケトチオラーゼ欠損症	
152	PCDH19関連症候群		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎		324	メチルグルタコン酸尿症	
154	睡眠時棘徐波活性化を示す発達性てんかん性脳症及びてんかん性脳症		325	遺伝性自己炎症疾患	
155	ランドウ・クレフナー症候群		326	大理石骨病	
156	レット症候群		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	328	前眼部形成異常	
158	結節性硬化症	2	329	無虹彩症	
159	色素性乾皮症	1	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	
160	先天性魚鱗癬		331	特発性多中心性キャッスルマン病	1
161	家族性良性慢性天疱瘡		332	膠様滴状角膜ジストロフィー	
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	4	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	
163	特発性後天性全身性無汗症		334	脳クレアチン欠乏症候群	
164	眼皮膚白皮症		335	ネフロン癆	
165	肥厚性皮膚骨膜症		336	家族性低 β リポタンパク血症1(ホモ接合体)	
166	弾性線維性仮性黄色腫		337	ホモシスチン尿症	
167	マルファン症候群/ロイス・ディーツ症候群	1	338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	
168	エーラス・ダンロス症候群		339	MECP2重複症候群	
169	メンケス病		340	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	
170	オクシピタル・ホーン症候群		341	TRPV4異常症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

171	ウィルソン病	2	342	LMNB1 関連大脳白質脳症	
			343	PURA 関連神経発達異常症	
			344	極長鎖アシル-CoA 脱水素酵素欠損症	
			345	乳児発症 STING 関連血管炎	
			346	原発性肝外門脈閉塞症	
			347	出血性線溶異常症	
			348	ロウ症候群	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	70
合計患者数(人)	1,129

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・情報通信機器を用いた診療にかかる基準	・呼吸ケアチーム加算
・医療DX推進体制整備加算4	・術後疼痛管理チーム加算
・特定機能病院入院基本料(一般病棟(7対1))	・後発医薬品使用体制加算1
・診療録管理体制加算2	・バイオ後続品使用体制加算
・医師事務作業補助体制加算1(25対1)	・病棟薬剤業務実施加算1
・25対1急性期看護補助体制加算(看護補助者5割以上)	・病棟薬剤業務実施加算2
・夜間100対1急性期看護補助体制加算(急性期看護補助体制加算の注2)	・データ提出加算2イ
・夜間看護体制加算(急性期看護補助体制加算の注3)	・入退院支援加算1
・看護補助体制充実加算2(急性期看護補助体制加算の注4)	・入院時支援加算(入退院支援加算の注7)
・看護職員夜間12対1配置加算1	・総合機能評価加算(入退院支援加算の注8)
・療養環境加算	・認知症ケア加算1
・重症者等療養環境特別加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・無菌治療室管理加算1	・排尿自立支援加算
・無菌治療室管理加算2	・特定集中治療室管理料1
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・(特定集中治療室管理料の注1)
・放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	・早期離床・リハビリテーション加算(特定集中治療室管理料の注4)
・緩和ケア診療加算	・早期栄養介入管理加算(特定集中治療室管理料の注5)
・がん拠点病院加算	・小児入院医療管理料3
・がんゲノム拠点病院加算	・(小児入院医療管理料の注2 イ)
・栄養サポートチーム加算	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・医療安全対策加算1	・歯科外来診療医療安全対策加算2
・感染対策向上加算1	・歯科外来診療感染対策加算3
・指導強化加算(感染対策向上加算の注2)	・
・患者サポート体制充実加算	・
・報告書管理体制加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・がん性疼痛緩和指導管理料	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・難治性がん性疼痛緩和指導管理加算(がん性疼痛緩和指導管理料の注2)	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・がん患者指導管理料イ	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
・がん患者指導管理料ロ	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡支援機器を用いる場合)
・がん患者指導管理料ハ	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの))
・がん患者指導管理料ニ	・肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・外来緩和ケア管理料	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・外来リハビリテーション診療料	・骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・外来放射線照射診療料	・内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術
・外来腫瘍化学療法診療料1	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・連携充実加算(外来腫瘍化学療法診療料の注6)	・腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・がん薬物療法体制充実加算(外来腫瘍化学療法診療料の注9)	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・ニコチン依存症管理料	・腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・相談支援加算(療養・就労両立支援指導料の注3)	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・がん治療連携計画策定料1	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うもの)
・がん治療連携管理料	・腹腔鏡下肝切除術
・外来がん患者在宅連携指導料	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・外来排尿自立指導料	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・薬剤管理指導料	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
・医療機器安全管理料1	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・医療機器安全管理料2	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・がんゲノムプロファイリング評価提供料	・小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)

・造血器腫瘍遺伝子検査	・腹腔鏡下副腎摘出手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び 腹腔鏡下副腎髓質腫瘍摘出手術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・遺伝学的検査	・腎腫瘍凝固・焼灼術 (冷凍凝固によるもの)
・骨髓微小残存病変量測定	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・BRCA1/2遺伝子検査	・腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
・がんゲノムプロファイリング検査	・腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)	・尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・検体検査管理加算(Ⅰ)(検体検査判断料の注4)	・膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・検体検査管理加算(Ⅳ)(検体検査判断料の注4)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・国際標準検査管理加算(検体検査判断料の注5)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・遺伝カウンセリング加算(検体検査判断料の注6)	・腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算(検体検査判断料の注7)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
・神経学的検査	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)
・内服・点滴誘発試験	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む) (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・CT透視下気管支鏡検査加算(経気管肺生検法の注2)	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経頸静脈的肝生検	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経気管支凍結生検法	・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・画像診断管理加算1	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・画像診断管理加算4	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ポジトロン断層撮影	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・腹腔鏡下腔式子宮全摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・CT撮影及びMRI撮影	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
・乳房MRI撮影加算(磁気共鳴コンピューター断層撮影の注5)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・頭部MRI撮影加算(磁気共鳴コンピューター断層撮影の注8)	・輸血管理料Ⅰ

・全身MRI撮影加算(磁気共鳴コンピューター断層撮影の注9)	・輸血適正使用加算
・大腸CT撮影加算(コンピューター断層撮影の注7)	・コーディネート体制充実加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算(処方料の注7、処方箋料の注6)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・外来化学療法加算1	・麻酔管理料(Ⅰ)
・無菌製剤処理料	・麻酔管理料(Ⅱ)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)	・放射線治療専任加算
・廃用症候群リハビリテーション料(Ⅱ)	・外来放射線治療加算
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・高エネルギー放射線治療
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・1回線量増加加算
・摂食嚥下機能回復体制加算2(摂食機能療法の注3)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・がん患者リハビリテーション料	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・リンパ浮腫複合的治療料	・体外照射呼吸性移動対策加算
・ストーマ合併症加算	・定位放射線治療
・皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算(皮膚悪性腫瘍切除術の注)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合)	・画像誘導密封小線源治療加算(密封小線源治療の注8)
・処理骨再建加算(四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術、骨悪性腫瘍手術の注)	・保険医療機関間の連携による病理診断
・骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・病理診断管理加算2
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算(頭蓋内腫瘍摘出術の注1)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算(頭蓋内腫瘍摘出術の注2)	・外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・内視鏡下脳腫瘍生検術	・入院ベースアップ評価料96
・内視鏡下脳腫瘍摘出術	・歯科治療時医療管理料
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・有床義歯咀嚼機能検査1
・経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)	・精密触覚機能検査
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)	・歯科口腔リハビリテーション料2
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・口腔粘膜処置
・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・乳癌センチネルリンパ節生検加算1(乳腺悪性腫瘍手術の注1)	・手術時歯根面レーザー応用加算
・乳癌センチネルリンパ節生検加算2(乳腺悪性腫瘍手術の注2)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・乳輪温存乳房切除術(腋窩廓清を伴わないもの)	・レーザー機器加算

・乳輪温存乳房切除術(腋窩廓清を伴うもの)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・う蝕菌無痛的窩洞形成加算
・乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算 (※当院が要件を満たしているのは”歯科技工士連携加算1”のみ)
・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・歯科技工加算
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・歯科外来・在宅ベースアップ評価料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施 設 基 準 等 の 種 類	施 設 基 準 等 の 種 類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
	10回／週	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度		
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	13
	剖検率(%)	3.58

(注) 1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こと。
(注) 2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
高齢がん患者の術後せん妄予防に対する標準治療の開発(ラメルテオンの有効性と安全性に関する多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験)	松岡弘道	精神腫瘍科	13,064,390	委	AMED
スプライシング遺伝子異常を有する進行・再発がんに対するPARP阻害剤単剤療法の医師主導治験のプロトコール作成	大熊ひとみ	国際開発部門 研究企画室	4,900,000	委	AMED
ドラッグ・ロス解消のための臨床試験人材の海外派遣事業	中村健一	国際開発部門	95,000,000	委	AMED
Stage III治癒切除大腸癌に対する術後補助療法としてのアスピリンの有用性を検証する二重盲検ランダム化比較試験	高島淳生	消化管内科	7,851,877	委	AMED
がん全ゲノム解析等の臨床的有用性の検証、および、患者選元の体制構築に関する研究	山本昇	先端医療科	312,689,300	委	AMED
がん全ゲノム解析等による実践的個別化医療体系構築と拡充をめざした多施設共同研究	角南久仁子	臨床検査科	459,128,147	委	AMED
前立腺癌に対するMR画像誘導即時適応定位放射線治療の臨床応用を目指す研究	井垣浩	放射線治療科	9,180,000	委	AMED
進行胃癌を対象とした大網切除に対する大網温存の非劣性を検証するランダム化比較第III相試験	吉川貴己	胃外科	11,960,000	委	AMED
がん患者における術後せん妄予防のプレジジョンメディシンの開発	貞廣良一	精神腫瘍科	47,287,999	委	AMED
高精細内視鏡併用・共焦点レーザー顕微内視鏡を用いた早期胃がんに対する狙撃光学生検の臨床応用と実用化	高丸博之	内視鏡科	14,280,000	委	AMED
高齢者における免疫チェックポイント阻害剤の投与方法別における薬物動態と毒性変化、免疫応答解析の前向き観察研究	吉田達哉	呼吸器内科 / 先端医療科	11,818,750	委	AMED
造血幹細胞移植後の二次性固形癌から得られたゲノム変異による個別化医療の確立と臨床的妥当性の検証	森泰昌	病理診断科	18,124,000	委	AMED
高精細内視鏡画像と切除後病理画像を用いた早期大腸がん最深部の三次元構造推定AIの開発	斎藤豊	内視鏡科	6,537,250	委	AMED
切除可能胆道癌に対する術前補助化学療法としてのゲムシタビン＋シスプラチン＋S-1 (GCS)療法の第III相試験	奥坂拓志	肝胆膵内科	11,450,000	委	AMED
下部直腸癌に対するtotal neoadjuvant therapy (TNT)および watch and wait strategyの第II/III相単群検証的試験	金光幸秀	大腸外科	15,390,000	委	AMED

Stage III治癒切除大腸癌に対する術後補助療法としてのアスピリンの有用性を検証する二重盲検ランダム化比較試験	高島淳生	消化管内科	16,900,000	委	AMED
非浸潤または小型非小細胞肺癌に対する機能温存手術の確立に関する研究	渡辺俊一	呼吸器外科	3,570,000	委	AMED
がん患者のオピオイド不応の神経障害性疼痛への標準的薬物療法の開発:国際共同試験ならびに普及実装に向けた研究	松岡弘道	精神腫瘍科/支持療法開発センター	18,434,000	委	AMED
アグレッシブ成人T細胞白血病リンパ腫を対象とした全国一元化レジストリ・バイオレポジトリ研究	福田隆浩	造血幹細胞移植科	13,385,000	委	AMED
がん幹細胞を標的とした初発膠芽腫の放射線+デモゾロミド+メトホルミン併用療法の第I・II相臨床試験	成田善孝	脳脊髄腫瘍科	7,800,000	委	AMED
がん全ゲノム解析等の臨床的有用性の検証、および、患者還元の体制構築に関する研究	山本昇	先端医療科	110,000,000	委	AMED
がん全ゲノム解析等による実践的個別化医療体系構築と拡充をめざした多施設共同研究	角南久仁子	臨床検査科	94,350,000	委	AMED
生検検体プロテオーム解析によるRAS野生型転移性大腸がんの抗EGFR抗体耐性機構の解明と新規治療標的の探索	平野秀和	消化管内科	6,110,000	委	AMED
L型アミノ酸トランスポーター (LAT1) 陽性腫瘍へのホウ素中性子捕捉療法 (BNCT) の適応拡大に向けたオールジャパンでのバスケット型治験実現のための、コンパニオン診断薬確立を目指す研究	柏原大朗	放射線治療科、先端医療開発センター BNCT医療開発分野	3,660,000	委	AMED
非小細胞肺癌に対するPD-1経路阻害薬の継続と休止に関するランダム化比較第III相試験	後藤悌	呼吸器内科	9,900,000	委	AMED
再発低リスク大腸癌患者における根治切除後のレスインテンシブなサーベイランスの単群検証的試験 (JCOG1915)	金光幸秀	大腸外科	3,470,000	委	AMED
患者報告アウトカムを利用したAYA世代がん患者支援ツールの開発	石木寛人	緩和医療科	19,500,000	委	AMED
網膜芽細胞腫患者・家族の包括的支持緩和ケアの前向きコホート研究	鈴木茂伸	眼腫瘍科	7,990,000	委	AMED
再発・難治性悪性神経膠腫に対する治療用放射性薬剤 ⁶⁴ Cu-ATSMの有効性を検証する研究開発	成田善孝	脳脊髄腫瘍科	46,810,000	委	AMED
小児・AYAがん患者の薬剤アクセスの改善と薬事承認に利活用可能なデータ収集を目的とした患者申出療養制度に基づく特定臨床研究	小川千登世	小児腫瘍科	78,366,839	委	AMED
希少がんプラットフォーム試験へのDCT導入に関する研究開発	中村健一	国際開発部門	65,910,000	委	AMED
乳がん根治治療後の慢性痛に対する鍼灸治療の開発	石木寛人	緩和医療科	7,410,000	委	AMED

ホウ素中性子捕捉療法用中性子照射装置の中性子ビーム特性評価の標準化に関する研究開発	井垣浩	放射線治療科	4,240,000	委	AMED
RWDを用いてバイオマーカーに基づいた希少がん・希少フラクション医薬品の適応拡大を含む、医薬品の効率的な利用制度の創設を目指した研究開発	大熊ひとみ	国際開発部門 研究企画室	5,200,000	委	AMED
早期開発から後期開発までのシームレスな研究開発支援体制構築事業	瀬戸泰之		172,700,000	委	AMED
アジアがん臨床試験ネットワーク構築に関する事業	瀬戸泰之		337,246,582	補	AMED
JCOG2111A根治的治療可能な非小細胞肺癌を対象としたMinimal Residual Diseaseの検出と予後を評価する前向き観察研究	堀之内秀仁	呼吸器内科	6,500,000	委	AMED
小児・AYA 世代の限局性高悪性度骨肉腫に対して治癒率維持と晩期心合併症の低減を両立させる新たな初発治療の開発	荒川歩	小児腫瘍科	9,815,000	委	AMED
膵がん・胆管がん免疫微小環境における血管の機能と制御	平岡伸介	病理診断科	1,200,000	補	日本学術振興会
バイオバンク試料を用いたプロテオゲノミクスによる骨軟部腫瘍の病態解明と治療法開発	川井章	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	1,882,008	補	日本学術振興会
リンチ症候群を伴うがん種横断的な生殖細胞・体細胞変異解析による発症要因の解明	石川光也	婦人腫瘍科	403,991	補	日本学術振興会
頭頸部粘膜悪性黒色腫の分子生物学的アプローチによる治療標的および予後因子の探索	小村豪	頭頸部外科	1,487,149	補	日本学術振興会
がん医療における心理療法の普及に向けた基盤構築	柳井優子	臨床開発推進部門医薬品開発推進部 支持療法開発室	997,935	補	日本学術振興会
Low-grade diffusely infiltrative tumor, SMARCB1-mutantの分子生物学的特徴の解明	杉野弘和	病理診断科	1,560,000	補	日本学術振興会
特異的臓器転移機構に着目した進行性尿路性器癌における横断的新規治療戦略の確立	松井喜之	泌尿器・後腹膜腫瘍科	1,402,265	補	日本学術振興会
X線CTの診断参考レベルと診断タスクに基づいた画質最適化のための研究	瓜倉厚志	放射線技術部 放射線診断技術室	180,000	補	日本学術振興会
小児がんにおける遺伝子発現解析を基盤とした治療標的候補同程と臨床応用に向けた研究	田尾佳代子	がんゲノム情報管理センター	727,896	補	日本学術振興会
子宮体部明細胞癌の臨床病理学及びゲノムプロファイル解析による新規治療戦略の確立	加藤真弓	婦人腫瘍科	259,652	補	日本学術振興会
アイソフォームの違いに基づくCD56/NCAM発現腫瘍の新規治療標的の探索	岸川さつき	病理診断科	1,433,290	補	日本学術振興会

がん患者の口腔環境維持のための口腔セルフケア介入の開発に関する研究	八岡和歌子	歯科	300,000	補	日本学術振興会
がん医薬品の薬価基準とESMO-MCBSの関係の検討	下井辰徳	腫瘍内科	496,545	補	日本学術振興会
肺癌生検組織における走査型蛍光X線顕微鏡を用いた元素マッピング	古瀬秀明	内視鏡科	455,234	補	日本学術振興会
遺伝カウンセリング提供者の共感性評価方法の構築を目的とした研究	友澤周子	遺伝子診療部門	1,634,174	補	日本学術振興会
新規せん妄予防法開発のための前向き観察研究 [~] GABAA受容体作動薬中止法開発 [~]	寺田立人	精神腫瘍科	921,420	補	日本学術振興会
ホウ素中性子捕捉療法における適正な治療効果予測法の確立	中村哲志	放射線品質管理室	606,819	補	日本学術振興会
肺がん化学放射線治療後の免疫チェックポイント阻害薬の効果予測に関する研究	稲葉浩二	放射線治療科	2,065,028	補	日本学術振興会
AYA世代慢性疾患患者の闘病体験の語り直しに関する研究	松元和子	精神腫瘍科	1,398,192	補	日本学術振興会
ゲノムの詳細解析に基づく若年肺癌発生分子機序の解明	角南久仁子	臨床検査科	2,920,134	補	日本学術振興会
族出と上皮間葉移行に注目した早期口腔癌のリンパ節転移予測	坂井利彦	頭頸部外科	585,092	補	日本学術振興会
放射線療法に伴う味覚障害の唾液メタボローム解析による病態解明と治療への応用	八岡和歌子	歯科	1,860,067	補	日本学術振興会
骨軟部腫瘍の病理診断に有用な免疫染色マーカーの開発	吉田朗彦	病理診断科	633,793	補	日本学術振興会
がん口腔支持医療における半夏瀉心湯の有用性を明らかにするための基礎及び臨床研究	上野尚雄	歯科	1,830,047	補	日本学術振興会
がん患者の抑うつ低減のための行動活性化療法を用いたセルフヘルププログラムの開発	小川祐子	精神腫瘍科	466,889	補	日本学術振興会
悪性黒色腫におけるALDH2遺伝子多型の発症と予後に関する影響の解明	緒方大	皮膚腫瘍科	180,000	補	日本学術振興会
唾液腺導管癌における新しい治療戦略へ向けたマイクロサテライト不安定性の解析	伏見千宙	頭頸部外科	1,143,661	補	日本学術振興会
頭頸部皮弁癌のゲノム解析による発癌メカニズムの解明	江口紘太郎	頭頸部外科	2,047,562	補	日本学術振興会

AYA世代のがん疼痛治療選択のためのバイオマーカー探索と新たながん疼痛治療の開発	松岡弘道	精神腫瘍科	1,797,581	補	日本学術振興会
AYA世代がん患者の心理的ケアを目的としたピアサポートシステムの開発	平山貴敏	精神腫瘍科	132,724	補	日本学術振興会
乳がんサバイバーの慢性疼痛の病態解明と治療開発	石木寛人	緩和医療科	726,005	補	日本学術振興会
術後せん妄発症を制御する免疫ランドスケープの解明	貞廣良一	精神腫瘍科	1,648,820	補	日本学術振興会
リン酸化プロテオゲノミクス解析を用いたBRAF変異陽性大腸癌治療抵抗性の解明	庄司広和	消化管内科	918,704	補	日本学術振興会
初発膠芽腫に対するメトホルミンを用いた臨床試験に付随するバイオマーカー探索研究	大野誠	脳脊髄腫瘍科	1,461,975	補	日本学術振興会
肉腫の脱分化機構に着目した新たな疾患分類の確立と治療標的開発	小林英介	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	1,619,409	補	日本学術振興会
子宮頸がんに対する治療標的となりうる新規ゲノムプロファイリングの同定	加藤友康	婦人腫瘍科	394,624	補	日本学術振興会
MDM2遺伝子増幅固形がんのバイオマーカーおよび免疫学的応答の基盤研究	小山隆文	先端医療科	3,295,479	補	日本学術振興会
放射線治療CT画像に起因する線量誤差定量化及びデュアルエネルギーCTの多施設評価	中市徹	放射線品質管理室	673,863	補	日本学術振興会
Single energy CTを用いたヨード定量画像：DECTの代替手法の確立	瓜倉厚志	放射線診断技術室	1,059,067	補	日本学術振興会
食道癌に対する術前治療法による微小腫瘍免疫環境に与える影響の違いに関する研究	柏原大朗	放射線治療科	180,000	補	日本学術振興会
末梢肺病変に対する気管支鏡の新たな検体採取法の確立	松元祐司	内視鏡科	380,057	補	日本学術振興会
予後不良Ewing肉腫における分子マーカーの同定および新規治療標的の探索	小倉浩一	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	598,010	補	日本学術振興会
重責・多発・再発癌のゲノム異常の蓄積、相同組換え修復欠損に基づく至適治療法の開発	森泰昌	病理診断科	1,360,306	補	日本学術振興会
小細胞肺癌のフェノタイプ解析による免疫療法の治療効果予測因子の解明	吉田達哉	呼吸器内科	1,620,550	補	日本学術振興会
下部消化管出血に対するイミペネムを用いた血管内治療の確立：腸管虚血回避に向けて	中間楽平	放射線診断科	2,127,544	補	日本学術振興会

リスク低減手術の性生活への影響:HBOC当事者とパートナーを対象とした質的研究	松川愛未	遺伝子診療部門	1,430,000	補	日本学術振興会
多層的遺伝子解析を用いた高悪性度軟部肉腫に対する個別化医療の開発	中谷文彦	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	390,000	補	日本学術振興会
がん患者の難治性神経障害性疼痛への標準的薬物療法に対する有効性評価の確立	松岡弘道	精神腫瘍科	2,849,098	補	日本学術振興会
骨軟部腫瘍全ゲノム解析データに基づく遺伝子異常の機能解析と治療標的の同定	平田真	遺伝子診療部門	6,500,000	補	日本学術振興会
浸潤性粘液腺癌の病態解明	谷田部恭	病理診断科	5,092,109	補	日本学術振興会
多層的遺伝子解析を用いた高悪性度軟部肉腫に対する個別化医療の開発	中谷文彦	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	888,836	補	日本学術振興会
がん患者の難治性神経障害性疼痛への標準的薬物療法に対する有効性評価の確立	松岡弘道	精神腫瘍科	1,430,000	補	日本学術振興会
胆道癌浸潤病巣における線維性間質の病態と、抗線維化治療への展開	羽賀敏博	病理診断科	2,093,310	補	日本学術振興会
肺高悪性度神経内分泌癌の分子標的治療と免疫療法による新規治療開発と耐性機序の解析	春木朋広	呼吸器外科	325,452	補	日本学術振興会
ホジキンリンパ腫における免疫微小環境のデジタル空間プロファイリング	竹内真衣	病理診断科	301,686	補	日本学術振興会
医療従事者間のオンラインコンサルテーションシステムを基盤にした地域のがん診療の均等化に向けた医療提供体制整備に関する研究	米盛勲	腫瘍内科	4,940,000	補	厚生労働省
ドラッグ・ロスの実態調査と解決手段の構築	佐藤潤	先端医療科	27,300,000	補	厚生労働省
リアルワールドデータを用いた国際標準分類に準拠した医療技術の再分類の取り組みと、再分類の効果予測研究	瀬戸泰之		1,144,000	補	厚生労働省
がん関連苦痛症状の体系的治療の開発と実践および専門的がん疼痛治療の地域連携体制モデル構築に関する研究	里見絵理子	緩和医療科	7,510,000	補	厚生労働省
骨髄バンクドナーの提供体制強化と若年ドナーの確保・リテンションへ向けた適切な介入方法の確立のための研究	福田隆浩	造血幹細胞移植科	4,958,000	補	厚生労働省
ICH-GCP改定における日本からのステークホルダー参画のための研究	中村健一	国際開発部門	6,750,000	補	厚生労働省
がん遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく複数の分子標的治療に関する患者申出療養の円滑な提供体制等の構築に資する研究	山本昇	先端医療科	14,820,000	補	厚生労働省

希少がん診療・相談支援におけるネットワーク構築に資する研究	川井章	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	5,950,000	補	厚生労働省
アピアランスケアに関する相談支援・情報提供体制の構築に向けた研究	藤間勝子	アピアランス支援室	8,250,000	補	厚生労働省
希少がんおよび小児がんの臨床試験・治験等に関する医療従事者と患者の情報リテラシーの向上に資する研究	大熊ひとみ	国際開発部門研究企画室	5,194,000	補	厚生労働省
希少がんおよび小児がんの臨床試験・治験等に関する医療従事者と患者の情報リテラシーの向上に資する研究	下井辰徳	腫瘍内科	2,060,000	補	厚生労働省
同種造血幹細胞移植患者に対する優先度の高い公的予防接種の再接種に関する研究	福田隆浩	造血幹細胞移植科	6,910,000	補	厚生労働省
小児がん患者の治療晩期障害としての、歯の形成障害の実態調査とQOL改善のためのツールの作成に関する研究	八岡和歌子	歯科	1,000,000	補	公益信託日本白血病研究基金
早期消化管癌のImage-enhanced endoscopy診断技術およびESD技術の習得。大腸早期がんのJNETを用いた内視鏡診断の国際共同研究、ESDトレーニングにおけるラーニングカーブの国際共同研究など	齋藤豊	内視鏡科	400,000	補	公益財団法人内視鏡医学研究振興財団
早期消化管癌のImage-enhanced endoscopy診断技術およびESD技術の習得。大腸早期がんのJNETを用いた内視鏡診断の国際共同研究、ESDトレーニングにおけるラーニングカーブの国際共同研究など	齋藤豊	内視鏡科	400,000	補	公益財団法人内視鏡医学研究振興財団
東南アジアに好発する上咽頭がんにおける新規治療標的探索および治療法の開発研究	米盛勲	腫瘍内科	5,000,000	補	公益財団法人小林がん学術振興会
高齢がん患者のせん妄予防にICTを導入する試み	佐々木千幸	看護部	1,500,000	補	公益信託中西睦子看護学先端的研究基金
DDX41異常による骨髄性造血器腫瘍の発症メカニズムの解明	松井啓隆	臨床検査科	1,000,000	補	一般社団法人日本血液学会
甲状腺がん患者を対象としたレンパチニブサポートを用いた院内外多職種連携による治療支援の有用性に関する研究	栗本珠衣	看護部 第一領域外来	500,000	補	公益財団法人SGH財団
人工知能によるコンピュータ検出支援を用いた大腸内視鏡検査の大腸がん検診における有効性と医療経済性評価に関するアジア多施設共同研究	関口正宇	内視鏡科	1,000,000	補	公益財団法人内視鏡医学研究振興財団
切除不能皮膚血管肉腫に対するペムブロリズマブ・レンパチニブの第II相医師主導治験	緒方大	皮膚腫瘍科	2,000,000	補	一般社団法人日本癌治療学会
がん治療を専門とする海外医師等研修に対する助成	吉田幸弘	呼吸器外科	3,880,900	補	公益財団法人小林がん学術振興会
がん治療を専門とする海外医師等研修に対する助成	米盛勲	腫瘍内科	8,199,000	補	公益財団法人小林がん学術振興会
海外がん治療の普及、底上げ活動に対する助成	寺田参省	国際開発部門 アジア連携推進室	7,400,000	補	公益財団法人小林がん学術振興会
頭頸部がんの照射野内再発におけるQUAD Shot小線源治療の安全性と有効性を検証する前向き研究	与芝茜	放射線治療科	500,000	補	マイクロセレクトロンHDR研究会
遠位胆道鏡狭窄を有する切除可能または切除可能境界腺癌に対する内視鏡的ドレナージにおける至適ステント確立のためのランダム化比較試験	肱岡範	肝胆膵内科	500,000	補	公益財団法人内視鏡医学研究振興財団

国立高度専門医療研究センター6機関受診患者における多疾患併存状態とポリファーマシーの関連:6NC -EHRs を用いたコホート研究	橋本浩伸	薬剤部	4,000,000	補	国立高度専門医療研究センター (JH)
がん患者に対する心理療法の普及実装に向けた基盤構築	柳井優子	精神腫瘍科	700,000	補	国立高度専門医療研究センター (JH)

計121件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kawaguchi, Y/ Watanabe, Y/ Miyakita, Y/他	脳脊髄腫瘍科	Successful treatment of pediatric patients with high-grade gliomas featuring leptomeningeal metastases by targeting BRAF V600E mutations with dabrafenib plus trametinib: two illustrative cases.	International cancer conference journal・2024年7月13巻3号256-262ページ	Case report
2	Ohno, M/ Kawaguchi, Y/ Sugino, H/他	脳脊髄腫瘍科	Resection and postoperative pazopanib for intraspinal recurrent solitary fibrous tumor: illustrative case.	Journal of neurosurgery. Case lessons・2024年7月8巻5号 CASE24217ページ	Case report
3	Ohno, M/ Takahashi, M/ Yanagisawa, S/ 他	脳脊髄腫瘍科	Development of a scoring system to predict local recurrence in brain metastases following complete resection and observation.	Journal of neuro-oncology・2024年11月170巻2号297-305ページ	Original Article
4	Osawa, S/ Miyakita, Y/ Takahashi, M/ 他	脳脊髄腫瘍科	The Safety and Usefulness of Awake Surgery as a Treatment Modality for Glioblastoma: A Retrospective Cohort Study and Literature Review.	Cancers・2024年7月16巻15号 2632ページ	Original Article
5	Tsuchiya, T/ Ohno, M/ Watanabe, Y/ 他	脳脊髄腫瘍科	Pediatric atypical teratoid/rhabdoid tumor in the cauda equina with rapid tumor progression: illustrative case.	Journal of neurosurgery. Case lessons・2024年8月8巻7号 CASE24219ページ	Case report
6	Fujita, S/ Ohno, M/ Osaki, S/ 他	脳脊髄腫瘍科	Novel case of anastomosing hemangioma of the extradural space: illustrative case.	Journal of neurosurgery. Case lessons・2024年8月8巻9号 CASE24265ページ	Case report
7	Tsuchiya, T/ Kawauchi, D/ Ohno, M/ 他	脳脊髄腫瘍科	Risk Factors of Distant Recurrence and Dissemination of IDH Wild-Type Glioblastoma: A Single-Center Study and Meta-Analysis.	Cancers・2024年8月16巻16号 2873ページ	Original Article
8	Ozeki, Y/ Honda- Kitahara, M/ Yanagisawa, S/ 他	脳脊髄腫瘍科	Early progressive disease within 2 years in isocitrate dehydrogenase (IDH)-mutant astrocytoma may indicate radiation necrosis.	Japanese journal of clinical oncology・2025年2月55巻2号 106-112ページ	Original Article
9	Tsuchiya, T/ Takahashi, M/ Ohno, M/ 他	脳脊髄腫瘍科	Delayed Deep White Matter Ischemia After Resection of Gliomas by Awake Surgery.	Neurosurgery practice・2024年12月5巻4号e00105ページ	Case report
10	Matsumoto, Y/ Kobayashi, K/ Eguchi, K/ 他	頭頸部外科	Surgical approach through the anterior scalene muscle resection for invasive tumours in the supraclavicular fossa (with video).	Japanese journal of clinical oncology・2024年8月54巻8号 939-944ページ	Original Article
11	Omura, G/ Eguchi, K/ Yoshimoto, S/ 他	頭頸部外科	Survival Outcome Superiority of Total Pharyngolaryngectomy Compared with Chemoradiotherapy for T4aM0 Hypopharyngeal Squamous Cell Carcinoma: A Nationwide Database Study of Japan	Annals of surgical oncology・2024年11月31巻12号8206-8213ページ	Original Article
12	Arikawa, M/ Akazawa, S/ Kageyama, D 他	形成外科	Nonreversed great saphenous vein grafts for vascular reconstruction after resection of lower-limb sarcoma.	Journal of plastic, reconstructive & aesthetic surgery : JPRAS・2024年10月97巻号65-70ページ	Original Article
13	Fujiwara, W/ Yotsukura, M/ Yoshida, Y/ 他	呼吸器外科	Clinical and Pathologic Differences between Small-Cell Carcinoma and Large-Cell Neuroendocrine Carcinoma of the Lung.	Annals of surgical oncology・2024年9月31巻9号5697-5705ページ	Original Article
14	Nakagawa, K/ Yotsukura, M/ Mimae, T/ 他	呼吸器外科	The Lung Cancer Surgical Study Group of the Japan Clinical Oncology Group: outstanding contribution and entering a new phase.	Japanese journal of clinical oncology・2024年12月54巻12号 1237-1243ページ	Original Article
15	Watanabe, S/ Yotsukura, M/ Miyoshi, T/ 他	呼吸器外科	Updated review of perioperative treatment for non-small-cell lung cancer in the new era of immune checkpoint inhibitors: past, present, and future.	Japanese journal of clinical oncology・2024年12月54巻12号 1244-1253ページ	Original Article

16	Nakagawa, K/ Watanabe, S/ Wakabayashi, M /他	呼吸器外科	Risk Factors for Locoregional Relapse After Segmentectomy: Supplementary Analysis of the JCOG0802/WJOG4607L Trial.	Journal of thoracic oncology・2025年2月20巻2号157-166ページ	Original Article
17	Yotsukura, M/ Yoshida, Y/ Nakagawa, K /他	呼吸器外科	Prognostic Indicator for Pleural Mesothelioma.	Annals of thoracic surgery short reports・2024年12月2巻4号597-602ページ	Original Article
18	Kosuge, A/ Yoshida, Y/ Yotsukura, M /他	呼吸器外科	En bloc upper and lower lobe bisegmentectomy for non-small-cell lung cancer invading the fissure.	Japanese journal of clinical oncology・2025年2月55巻2号194-197ページ	Original Article
19	Nakagawa, K/ Watanabe, S/ Wakabayashi, M /他	呼吸器外科	A Response to Letter to the Editor: "Refining Risk Stratification for Locoregional Relapse in Clinical Stage IA Small-Sized Peripheral NSCLC After Segmentectomy".	Journal of thoracic oncology・2025年2月20巻2号e22-e23ページ	Original Article
20	Nakagawa, K/ Watanabe, S/ Wakabayashi, M /他	呼吸器外科	A Response to the Letter to the Editor: "Sites of Primary Tumors as Crucial Points When Conducting Segmentectomy for NSCLC".	Journal of thoracic oncology・2025年2月20巻2号e24-e25ページ	Original Article
21	Nakagawa, K/ Watanabe, S/ Wakabayashi, M /他	呼吸器外科	A Response to Letter to the Editor: "Considerations on Genetics and Treatment Factors in NSCLC Segmentectomy Outcomes".	Journal of thoracic oncology・2025年2月20巻2号e27-e28ページ	Original Article
22	Miyakoshi, J/ Yoshida, T/ Kashima, J /他	呼吸器内科	Clinical significance of inter-assay discrepancy in PD-L1 evaluation for the efficacy of pembrolizumab in advanced NSCLC with high PD-L1 expression.	Lung cancer (Amsterdam, Netherlands)・2024年5月191巻号107788ページ	Original Article
23	Tamura, K/ Okuma, Y/ Nomura, S /他	呼吸器内科	Efficacy and safety of chemoimmunotherapy in advanced non-small cell lung cancer patients with antibiotics-induced dysbiosis: a propensity-matched real-world analysis.	Journal of cancer research and clinical oncology・2024年4月150巻4号216ページ	Original Article
24	Torasawa, M/ Yoshida, / Shiraishi, K /他	呼吸器内科	Rapid Response to Lenvatinib and Disease Flare After Discontinuation in a Patient With Thymic Carcinoma Harboring KIT Exon 11 Mutation: A Case Report.	JTO clinical and research reports・2024年4月5巻4号100657ページ	Original Article
25	Tamura, A/ Inaba H/ Yoshida, T /他	呼吸器内科	Response to dabrafenib plus trametinib on a rare BRAF mutation (V600.W604 deletion-insertion R) in an advanced non-small cell lung cancer patient.	Thoracic cancer・2024年6月15巻18号1454-1456ページ	Original Article
26	Fukuda, A/ Okuma, Y	呼吸器内科	From Rarity to Reality: Osimertinib's Promising Horizon in Treating Uncommon EGFR Mutations in Non-Small Cell Lung Cancer.	Clinical cancer research・2024年8月30巻15号3128-3136ページ	Original Article
27	Tanaka, T/ Goto, Y/ Masuda, K /他	呼吸器内科	The remarkable antitumor efficacy of corticosteroid treatment in patients with refractory thymomas.	Respiratory investigation・2024年9月62巻5号766-772ページ	Original Article
28	Murata, S//Horinouchi, H/ Morishita, M /他	呼吸器内科	Impact of Durvalumab on the Duration and Complexity of Corticosteroid Therapy for Pneumonitis After Chemoradiotherapy.	Clinical lung cancer・2024年11月25巻7号e369-e378.e3ページ	Original Article
29	Higashiyama, R/ Yoshida, T	呼吸器内科	A Response to the Letter to the Editor: Safety Implications of Switching Pembrolizumab Dosage From 200 mg Every 3 Weeks to 400 mg Every 6 Weeks in Patients With Advanced NSCLC.	Journal of thoracic oncology・2024年9月19巻9号e33-e34ページ	Original Article
30	Igawa, Y/ Yoshida, / Makihara, R /他	呼吸器内科	Association between lorlatinib blood concentration and adverse events and clinical impact of dose modification.	Lung cancer (Amsterdam, Netherlands)・2024年10月196巻号107954ページ	Original Article
31	Okuma, Y	呼吸器内科	New territories: perioperative chemoimmunotherapy in early-stage NSCLC.	The Lancet. Respiratory medicine・2025年2月13巻2号102-103ページ	Original Article
32	Tateishi, A/ Okuma, Y/ Goto, Y /他	呼吸器内科	Key Therapeutic Agents for Thymic Carcinoma in Real-world Clinical Practice.	Anticancer research・2024年12月44巻12号5501-5513ページ	Original Article
33	Horinouchi, H/ Murakami, H/ Harada, H /他	呼吸器内科	Real-world status of multimodal treatment of Stage IIIA-N2 non-small cell lung cancer in Japan: Results from the SOLUTION study, a non-interventional, multicenter cohort study.	Lung cancer (Amsterdam, Netherlands)・2025年1月199巻号108027ページ	Original Article

34	Masuda, K/ Yoshida, T/ Motoi, N/他	呼吸器内科	Schlafen 11 Expression in Patients With Small Cell Lung Cancer and Its Association With Clinical Outcomes.	Thoracic cancer・2025年1月16巻1号e15529ページ	Original Article
35	Shirasawa, M/ Yoshida, T/ Matsutani, T/他	呼吸器内科	Diversity of TCR repertoire predicts recurrence after CRT followed by durvalumab in patients with NSCLC.	NPJ precision oncology・2025年1月9巻1号17ページ	Original Article
36	Fujii, H/ Okuma, Y/ Hirata, M/他	呼吸器内科	EGFR-Mutated Lung Adenocarcinoma With Li-Fraumeni Syndrome: The Imperative for Germline Testing in Patients With a Family History, a Case Report.	JTO clinical and research reports・2025年2月6巻2号100691ページ	Original Article
37	Daiko, H/ Oguma, J/ Ishiyama, K/他	食道外科	Technical feasibility and oncological outcomes of robotic esophagectomy compared with conventional thoracoscopic esophagectomy for clinical T3 or T4 locally advanced esophageal cancer: a propensity-matched analysis.	Surgical endoscopy・2024年7月38巻7号3590-3601ページ	Original Article
38	Daiko, H/ Ishiyama, K/ Kurita, D/他	食道外科	Bilateral transcervical mediastinoscopy-assisted transhiatal laparoscopic esophagectomy compared with thoracoscopic esophagectomy for esophageal cancer: a propensity score-matched analysis.	Surgical endoscopy・2024年10月38巻10号5746-5755ページ	Original Article
39	Yamagata, Y/ Yoshikawa, T/ Sakon, R/他	胃外科	Impact of D2 Total Gastrectomy Including Splenectomy for Scirrhus Gastric Cancer in the Era of Effective Adjuvant Chemotherapy.	Journal of gastrointestinal cancer・2024年9月55巻3号1098-1104ページ	Original Article
40	Yoshikawa, T/ Kikko, / Makino, R/他	胃外科	Adjuvant and post-recurrent treatment patterns in patients with resectable gastric cancer in japan: a retrospective database cohort study.	Gastric cancer・2024年7月27巻4号827-839ページ	Original Article
41	Hayashi, M/ Yoshikawa, T/ Mizusawa, J/他	胃外科	Prognostic Impact of Post-operative Infectious Complications in Gastric Cancer Patients Receiving Neoadjuvant Chemotherapy: Post Hoc Analysis of a Randomized Controlled Trial, JCOG0501.	Journal of gastrointestinal cancer・2024年9月55巻3号1125-1133ページ	Original Article
42	Ishizu, K/ Hayashi, T/ Ogawa, R/他	胃外科	Characteristics of Metachronous Remnant Gastric Cancer After Proximal Gastrectomy: A Retrospective Analysis.	Journal of gastric cancer・2024年7月24巻3号280-290ページ	Original Article
43	Yoshikawa, T/ Terashima, M/ Mizusawa, J	胃外科	Reply to letter to the editor: "5-year follow-up results of a JCOG1104 (OPAS-1) phase III noninferiority trial to compare 4 courses and 8 courses of S-1 adjuvant chemotherapy for pathological stage II gastric cancer".	Gastric cancer・2024年9月27巻5号1155-1156ページ	Letter
44	Wada, T/ Yoshikawa, T/ Honda, S/他	胃外科	Para-aortic lymph node dissection following neoadjuvant chemotherapy for type 4 or large type 3 gastric cancer with extensive lymph node metastasis.	World journal of surgery・2024年10月48巻10号2487-2495ページ	Original Article
45	Fujisaki, Y/ Yoshikawa, T/ Ogawa, R/他	胃外科	Necessity of splenectomy for antral-type scirrhus gastric cancer.	European journal of surgical oncology・2024年10月巻号108734ページ	Original Article
46	Yoshikawa, T/ Hayashi, T/ Nishino, M/他	胃外科	A new hybrid robotic surgery by minimally invasive laparoscopic and robotic (MILAR) system using da Vinci single-port (SP) in distal gastrectomy for gastric cancer.	Asian journal of endoscopic surgery・2025年1-12月18巻1号e13401ページ	Others
47	Yoshikawa, T/ Hayashi, T/ Nishino, M/他	胃外科	Short-Term Outcomes of a Novel Hybrid Technique, Minimally Invasive Laparoscopic and Robotic Surgery (MILAR) Using the da Vinci SP System for Gastric Cancer.	Asian journal of endoscopic surgery・2025年1-12月18巻1号e70012ページ	Original Article
48	Ishizu, K/ Takahashi, S/ Kouno, N/他	胃外科	Establishment of a machine learning model for predicting splenic hilar lymph node metastasis.	NPJ digital medicine・2025年2月8巻1号93ページ	Original Article
49	Sakon, R/ Hayashi, T/ Ogawa, R/他	胃外科	Is Primary Surgery Followed by S-1 Applicable Even for Type 4 or Large Type 3 Gastric Cancer With Positive Peritoneal Lavage Cytology?	World journal of surgery・2025年3月49巻3号727-733ページ	Original Article

50	Inoue, M/ Kanemitsu, Y/ Tsukamoto, S/他	大腸外科	Prognostic impact of primary tumour location after curative resection in Stage I–III colorectal cancer: a single-centre retrospective study.	Japanese journal of clinical oncology・2024年7月54巻7号753–760ページ	Original Article
51	Kumamoto, T/ Takamizawa, Y/ Miyake, M/他	大腸外科	Clinical utility of sarcopenia dynamics assessed by psoas muscle volume in patients with colorectal cancer.	World journal of surgery・2024年9月48巻9号2098–2108ページ	Original Article
52	Ito, S/ Takamizawa, Y/ Moritani, K/他	大腸外科	Prognostic Impact of Skip Metastasis to the Lateral Lymph Nodes in Lower Rectal Cancer.	Journal of the anus, rectum and colon・2024年10月8巻4号393–402ページ	Original Article
53	Hirata, S/ Kanemitsu, Y/ Moritani, K/他	大腸外科	A pedicled anterolateral thigh flap decreased the risk of empty pelvis syndrome following total pelvic exenteration.	Colorectal disease・2025年1月27巻1号e17239ページ	Original Article
54	Kanemitsu, Y/ Uotani, T/ Tsukamoto, S/他	大腸外科	Nomograms Predicting Survival, Recurrence and Beneficiary Identification of Adjuvant Chemotherapy in Treatment-naïve Patients with Rectal Cancer who Underwent Upfront Curative Resection: A multi-institutional study.	Annals of surgery open : perspectives of surgical history, education, and clinical approaches・2024年12月5巻4号e508ページ	Original Article
55	Takashima, A/ Garcí a-Alfonso, P/ Manneh, R /他	消化管内科	Olaparib with or without bevacizumab versus bevacizumab plus a fluoropyrimidine as maintenance therapy in advanced colorectal cancer: The randomized phase 3 LYNK-003 study.	European journal of cancer (Oxford, England : 1990)・2024年7月205巻号114036ページ	Original Article
56	Kadono, T/ Iwasa, S/ Hirose, T/他	消化管内科	Impact of immune checkpoint inhibitors on survival outcomes in advanced gastric cancer in Japan: A real-world analysis.	Cancer medicine・2024年6月13巻12号e7401ページ	Original Article
57	Takashima, A/ Hamaguchi, T/ Mizusawa, J/他	消化管内科	Oxaliplatin Added to Fluoropyrimidine/Bevacizumab as Initial Therapy for Unresectable Metastatic Colorectal Cancer in Older Patients: A Multicenter, Randomized, Open-Label Phase III Trial (JCOG1018).	Journal of clinical oncology・2024年11月42巻33号3967–3976ページ	Original Article
58	Takashima, A/ Ishiguro, M/ Sasaki, K /他	消化管内科	Real-world treatment costs of first-line treatment for metastatic colorectal cancer: a survey of the JCOG colorectal cancer study group.	Japanese journal of clinical oncology・2024年10月54巻10号1107–1114ページ	Original Article
59	Shoji, H/ Hirano, H/ Nojima, Y /他	消化管内科	Phosphoproteomic subtyping of gastric cancer reveals dynamic transformation with chemotherapy and guides targeted cancer treatment.	Cell reports・2024年10月43巻10号114774ページ	Original Article
60	Fujii, H/ Hirano, H/ Shiraishi, K/他	消化管内科	Comprehensive Genomic Assessment of Advanced-Stage GI Stromal Tumors Using the Japanese National Center for Cancer Genomics and Advanced Therapeutics Database.	JCO precision oncology・2024年10月8巻号e2400284ページ	Original Article
61	Hirano, H/ Kataoka, K/ Yamaguchi, T /他	消化管内科	Sex differences in toxicities and survival outcomes among Japanese patients with Stage III colorectal cancer receiving adjuvant fluoropyrimidine monotherapy: A pooled analysis of 4 randomized controlled trials (JCOG2310A).	European journal of cancer (Oxford, England : 1990)・2025年1月214巻号115139ページ	Original Article
62	Takamizawa, S/ Hirano, H/ Takashima, A/他	消化管内科	Clinicopathological and molecular features of claudin-18 isoform 2 expression in patients with colorectal cancer: a single-center retrospective study.	Therapeutic advances in medical oncology・2024年12月16巻号17588359241286774ページ	Original Article
63	Fujii, H/Shoji, H/ Hirano, H/他	消化管内科	Exploring novel therapeutic targets in small bowel adenocarcinoma: insights from claudin 18.2, nectin-4, and HER3 expression analysis.	ESMO open・2025年1月10巻1号104098ページ	Original Article
64	Hirano, H/ Takahashi, N/ Amanuma, Y/他	消化管内科	Phase II trial of nab-paclitaxel plus ramucirumab in combination with nivolumab for unresectable advanced or recurrent gastric cancer after progression on first-line treatment including fluoropyrimidine, platinum, and anti-PD-1/PD-L1 antibody (PADDLE).	BMC cancer・2025年2月25巻1号201ページ	Original Article

65	Saito, Y/ Sakamoto, T/ Dekker, E /他	内視鏡科	First report from the International Evaluation of Endoscopic classification Japan NBI Expert Team: International multicenter web trial.	Digestive endoscopy・2024年5月36巻5号591-599ページ	Original Article
66	Cho, H/ Abe, S/ Nonaka, S/他	内視鏡科	Long-term outcomes after non-curative endoscopic resection for esophageal squamous cell carcinoma followed by additional chemoradiotherapy.	Diseases of the esophagus・2024年4月37巻5号doae004ページ	Original Article
67	Sekiguchi, M/ Suzuki, H/ Takizawa, K /他	内視鏡科	Potential for expanding indications and curability criteria of endoscopic resection for early gastric cancer in elderly patients: results from a Japanese multicenter prospective cohort study.	Gastrointestinal endoscopy・2024年9月100巻3号438-448.e1ページ	Original Article
68	Sekiguchi, M/ Kishida, Y/ Ikematsu, H/他	内視鏡科	Proportions and characteristics of interval cancer in annual fecal immunochemical test screening and postcolonoscopy colorectal cancer: Results from a Japanese multicenter prospective study using questionnaires, the C-DETECT study.	Digestive endoscopy・2024年10月36巻10号1140-1151ページ	Original Article
69	Saito, Y	内視鏡科	Top tips for performing high-quality optical zoom chromocolonoscopy (with video).	Gastrointestinal endoscopy・2024年7月100巻1号122-127ページ	Others
70	Makiguchi, M/ Saito, Y	内視鏡科	The running suture with clip and string technique after colonic endoscopic submucosal dissection.	Endoscopy・2024年12月56巻S 01号E350-E351ページ	Others
71	Saito, Y/ Toyoshima, N/ Mizuguchi, Y/他	内視鏡科	Protocol for a prospective multicenter randomized controlled trial to evaluate the efficacy of texture and color enhancement imaging (TXI) observation in the detection of colorectal lesions (deTXI on study).	Japanese journal of clinical oncology・2024年9月54巻9号1052-1056ページ	Original Article
72	Uozumi, T/ Abe, S/ Mizuguchi, Y/他	内視鏡科	Endoscopic hand suturing using a modified through-the-scope needle holder for mucosal closure after colorectal endoscopic submucosal dissection: Prospective multicenter study (with video).	Digestive endoscopy・2024年11月36巻11号1245-1252ページ	Original Article
73	Sekiguchi, M/ Kawamura, T/ Horiguchi, G /他	内視鏡科	Colorectal Neuroendocrine Neoplasm Detection Rate During Colonoscopy: Results From Large-Scale Data of Colonoscopies in Japan.	The American journal of gastroenterology・2025年2月120巻2号473-477ページ	Original Article
74	Hirai, Y/ Toyoshima, N/ Saito, Y	内視鏡科	Endoscopic Resection for Colorectal Tumors.	Digestion・2025年11月106巻2号115-121ページ	Review
75	Uozumi, T/ Abe, S/ Sugimoto, M/他	内視鏡科	Computed tomography-based virtual reality-guided preoperative simulation for endoscopic full-thickness resection of a gastric submucosal tumor.	Endoscopy・2024年12月56巻S 01号E1010-E1011ページ	Original Article
76	Kawamura, R/ Abe, S/ Mizuguchi, Y/他	内視鏡科	Over-the-scope pre-looping method using an endoloop in endoscopic full-thickness resection of gastric gastrointestinal stromal tumor.	Endoscopy・2024年12月56巻S 01号E1034-E1035ページ	Others
77	Takamaru, H/ Tsay, C/ Shiba, /他	内視鏡科	Microbiome and Colorectal Cancer in Humans: A Review of Recent Studies.	Journal of the anus, rectum and colon・2025年1月9巻1号20-24ページ	Review
78	Tsuchida, H/ Matsumoto, Y/ Furuse, H/他	内視鏡科	Adenocarcinoma originating in the anterior mediastinum diagnosed by endobronchial ultrasound-guided transbronchial cryobiopsy: a case report.	BMC pulmonary medicine・2024年4月24巻1号181ページ	Case report
79	Matsumoto, Y/ Kho, S/ Furuse, H	内視鏡科	Improving diagnostic strategies in bronchoscopy for peripheral pulmonary lesions.	Expert review of respiratory medicine・2024年8月18巻8号581-595ページ	Review
80	Furuse, H/ Matsumoto, Y/ Nakai, T/他	内視鏡科	Diagnostic efficacy of cryobiopsy for peripheral pulmonary lesions with ground-glass opacity: a propensity score-matched analysis.	Translational lung cancer research・2024年9月13巻9号2175-2186ページ	Original Article
81	Nanami, H/ Matsumoto, Y/ Furuse, H/他	内視鏡科	Efficacy of cryobiopsy during medical thoracoscopy for diagnosing malignant pleural mesothelioma.	Lung cancer (Amsterdam, Netherlands)・2025年1月199巻号108074ページ	Original Article

82	Umino, R/ Nara, S/ Mizui, T/他	肝胆膵外科	Impact of Surgical Margin Status on Survival and Recurrence After Pancreaticoduodenectomy for Distal Cholangiocarcinoma: Is Microscopic Residual Tumor (R1) Associated with Higher Rates of Local Recurrence?	Annals of surgical oncology・2024年8月31巻8号4910-4921ページ	Original Article
83	Umino, R/ Nara, S/ Mizui, T/他	肝胆膵外科	ASO Author Reflections: Future Perspectives in Surgical Management of Distal Cholangiocarcinoma: Insights from Surgical Margin Status and Recurrence Patterns	Annals of surgical oncology・2024年8月31巻8号4946-4947ページ	Letter
84	Ito, S/ Takamoto, T/ Nara, S/他	肝胆膵外科	RAS mutation associated with short surgically controllable period in colorectal liver metastases: a retrospective study.	World journal of surgical oncology・2024年9月22巻1号247ページ	Original Article
85	Uemura, S/ Ban, D/ Esaki, M/他	肝胆膵外科	Risk factor analysis of postoperative pancreatic fistula after distal pancreatectomy with a focus on the peritoneum to portal vein distance on computed tomography.	World journal of surgery・2024年10月48巻10号2496-2504ページ	Original Article
86	Takamoto, T/ Nara, S/ Ban, D/他	肝胆膵外科	Chronological evolution in liver resection for hepatocellular carcinoma: Prognostic trends across three decades in early to advanced stages.	European journal of surgical oncology・2025年2月51巻2号109461ページ	Original Article
87	Yoshino, J/ Nara, S/ Yokoyama, M/他	肝胆膵外科	Prognostic impact of lymph node dissection in intrahepatic cholangiocarcinoma: a propensity score analysis.	Langenbeck's archives of surgery・2024年12月410巻1号3ページ	Original Article
88	Ohba, A/ Morizane, C/ Kawamoto, Y/他	肝胆膵内科	Trastuzumab Deruxtecan in Human Epidermal Growth Factor Receptor 2-Expressing Biliary Tract Cancer (HERB; NCCH1805): A Multicenter, Single-Arm, Phase II Trial.	Journal of clinical oncology・2024年9月42巻27号3207-3217ページ	Original Article
89	Morizane, C/ Ueno, M/ Ioka, T/他	肝胆膵内科	Tasurgratinib in patients with cholangiocarcinoma or gastric cancer: Expansion part of the first-in-human phase I study.	Cancer science・2025年1月116巻1号192-203ページ	Original Article
90	Harai, S/ Hijioka, S/ Yamada, R/他	肝胆膵内科	Safety of biliary drainage with 6-mm metallic stent for preoperative obstructive jaundice in pancreatic cancer: PURPLE SIX STUDY.	Journal of gastroenterology and hepatology・2024年7月39巻7号1442-1449ページ	Original Article
91	Agarie, D/ Hijioka, / Nagashio, Y/他	肝胆膵内科	The case of infected intra-abdominal hematoma complicating endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition.	Endoscopy・2024年12月56巻S 01号E309-E310ページ	Case report
92	Hijioka, S/ Yamashige, D/ Esaki, M/ 他	肝胆膵内科	Factors Affecting Nonfunctioning Small Pancreatic Neuroendocrine Neoplasms and Proposed New Treatment Strategies.	Clinical gastroenterology and hepatology・2024年7月22巻7号1416-1426.e5ページ	Original Article
93	Fukuda, S/ Hijioka, S/ Nagashio, Y/他	肝胆膵内科	Forward-viewing echoendoscope aids tissue acquisition via the afferent limb after pancreaticoduodenectomy.	Endoscopy・2024年12月56巻S 01号E366-E368ページ	Case report
94	Okamoto, K/ Hijioka, S/ Nagashio, Y/他	肝胆膵内科	Immune-related adverse event-associated sclerosing cholangitis due to immune checkpoint inhibitors: imaging findings and treatments.	Japanese journal of clinical oncology・2024年8月54巻8号887-894ページ	Original Article
95	Fukuda, S/ Hijioka, S/ Nagashio, Y /他	肝胆膵内科	Feasibility and safety of a novel plastic stent designed specifically for endoscopic ultrasound-guided pancreatic duct drainage.	Endoscopy international open・2024年6月12巻6号E715-E722ページ	Original Article
96	Hagiwara, Y/ Hijioka, S/ Nagashio, Y/他	肝胆膵内科	Efficacy of endoscopic ultrasound-guided gastroenterostomy using self-expandable metallic stent for afferent loop syndrome: A single-center retrospective study.	Journal of gastroenterology and hepatology・2024年10月39巻10号2136-2142ページ	Original Article
97	Kawasaki, Y/ Hijioka, S/ Nagashio, Y/ 他	肝胆膵内科	Diagnostic performance of EUS-guided tissue acquisition for solid pancreatic lesions ≤ 10 mm.	Endoscopic ultrasound・2024年3-4月13巻2号115-122ページ	Original Article
98	Takeshita, K/ Hijioka, S/ Nagashio, Y/ 他	肝胆膵内科	Comparison of stent patency between EUS-guided hepaticogastrostomy with bridging and endoscopic transpapillary biliary drainage for hilar obstruction.	Endoscopy international open・2024年7月12巻7号E875-E886ページ	Original Article
99	Yagi, S/ Hijioka, S/ Okamoto, K/他	肝胆膵内科	Successful gastroduodenal stenting using the endoscopic ultrasound-guided rendezvous technique by Treitz ligament puncture.	Endoscopy・2024年12月56巻S 01号E653-E655ページ	Case report

100	Takeshita, K/ Hijioka, S/ Nagashio, Y/他	肝胆膵内科	Study Protocol for a Prospective Self-Controlled Trial on Success in Meeting Comprehensive Genomic Profiling Analysis Criteria for Specimens Obtained by Endoscopic Ultrasound-Guided Tissue Acquisition Using a 19G Needle from Primary and Metastatic Lesions in Pancreatic Cancer with Metastatic Lesions: The PRIMATE Study	Diseases (Basel, Switzerland)・2024年8月12巻8号182ページ	Others
101	Fukuda, S/ Hijioka, S/ Nagashio, Y/他	肝胆膵内科	Utility of Transpapillary Biopsy and Endoscopic Ultrasound-Guided Tissue Acquisition for Comprehensive Genome Profiling of Unresectable Biliary Tract Cancer.	Cancers・2024年8月16巻16号2819ページ	Original Article
102	Kawasaki, Y/ Hijioka, S/ Nagashio, Y/他	肝胆膵内科	Gas embolism in double-balloon endoscopic retrograde cholangiography with carbon dioxide insufflation.	Endoscopy・2024年12月56巻S 01号E951-E952ページ	Case report
103	Yamashige, D/ Hijioka, S/ Nagashio, Y/他	肝胆膵内科	Metal stent versus plastic stent in endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy for unresectable malignant biliary obstruction: Large single-center retrospective comparative study.	Digestive endoscopy・2025年1月37巻1号117-129ページ	Original Article
104	Yamashige, D/ Hijioka, S/ Nagashio, Y/他	肝胆膵内科	Potential of 6-mm-diameter fully covered self-expandable metal stents for unresectable malignant distal biliary obstruction: a propensity score-matched study.	Clinical endoscopy・2025年1月58巻1号121-133ページ	Original Article
105	Morizane, C/ Ueno, M/ Ikeda, M/他	肝胆膵内科	Update for: New developments in systemic therapy for advanced biliary tract cancer.	Japanese journal of clinical oncology・2025年3月55巻3号210-218ページ	Review
106	Matsuda, A/ Taoka, R/ Miki, J/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	Prognostic impact of histological discordance between transurethral resection and radical cystectomy.	BJU international・2024年8月134巻2号207-218ページ	Original Article
107	Kirisawa, T/ Okuno, T/ Hagimoto, H/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	Clinical characteristics and survival outcomes of elderly patients with de novo metastatic germ cell tumors.	International journal of urology・2024年7月31巻7号804-812ページ	Original Article
108	Kirisawa, T/ Maeshima, A/ Okuno, T/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	Widespread benign HNF1 β -positive solid nests from the urethral diverticulum to the bladder neck: Is it a mesonephric remnant?.	Pathology international・2024年12月74巻12号714-717ページ	Letter
109	Hagimoto, H/ Kubota, M/ Matsui, Y/他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	Impact of neurovascular bundle preservation on biochemical recurrence after robot-assisted radical prostatectomy for high-risk prostate cancer.	World journal of urology・2024年12月43巻1号43ページ	Original Article
110	Kirisawa, T/ Maeshima, A/ Kikkawa, N /他	泌尿器・後腹膜腫瘍科	Prognostic factors for patients with urachal carcinoma undergoing radical surgery: risk stratification for future prospects of precision oncology.	JU Open Plus・2024年9月2巻9号e00096ページ	Original Article
111	Ozawa, R/ Nishikawa, T/ Yoshida, H/他	婦人腫瘍科	Unveiling pembrolizumab effectiveness in diverse subtypes of MSI-high endometrial cancers.	Journal of gynecologic oncology・2024年11月35巻6号e103ページ	Original Article
112	Fujii, E/ Kato, M/ Yamaguchi, M/他	婦人腫瘍科	Genomic profiles of Japanese patients with vulvar squamous cell carcinoma.	Scientific reports・2024年6月14巻1号13058ページ	Original Article
113	Natsume, T/ Kobayashi-Kato, M/ Tanase, Y/他	婦人腫瘍科	Laparoscopic Posterior Pelvic Exenteration with Radical Vulvectomy for Intestinal-type Vulvar Adenocarcinoma.	Gynecology and minimally invasive therapy・2024年4-6月13巻2号126-129ページ	Case report
114	Kato, M/ Fujii, Er/ Yamaguchi, M/他	婦人腫瘍科	Excellent concordance of the molecular classification between preoperative biopsy and final hysterectomy in endometrial carcinoma.	Gynecologic oncology・2024年11月190巻号139-145ページ	Original Article
115	Ozawa, R/ Nishikawa, T/ Yamamoto, K/他	婦人腫瘍科	The efficacy and safety of lenvatinib plus pembrolizumab therapy in patients with uterine carcinosarcoma.	Gynecologic oncology reports・2024年10月55巻号101479ページ	Original Article
116	Ogawa, A/ Yoshida, H/ Kawano, S/他	婦人腫瘍科	Ovarian Mesonephric-like Adenocarcinoma: Its Prevalence in a Japanese High-Volume Cancer Center and a Literature Review on Therapeutic Targets.	Current oncology (Toronto, Ont.)・2024年8月31巻9号5107-5120ページ	Review
117	Nakahara, M/ Yoshida, H/ Sakamoto, A/他	婦人腫瘍科	Endometrial cancer and endometrial changes in transgender men: Insights from Japanese individuals on testosterone.	The journal of obstetrics and gynaecology research・2024年11月50巻11号2019-2028ページ	Case report

118	Takigawa, W/ Yoshida, H/ Kitamura, S/他	婦人腫瘍科	Intraoperative peritoneal cytology for cervical gastric-type adenocarcinoma: Cytopathology and clinical impact.	Cancer cytopathology・2025年1月133巻1号e22915ページ	Original Article
119	Fujii, E/ Kato, M/ Ono, H/他	婦人腫瘍科	TP53 Mutations and PD-L1 Amplification in Vulvar Adenocarcinoma of the Intestinal Type: Insights From Whole Exome Sequencing of 2 Cases.	International journal of gynecological pathology・2025年1月44巻4号358-363ページ	Case report
120	Ishikawa, M	婦人腫瘍科	Rare malignant ovarian tumors: a review.	Japanese journal of clinical oncology・2025年3月55巻3号205-209ページ	Review
121	Natsume, T/ Kobayashi-Kato, M/ Tanase, Y/他	婦人腫瘍科	Rectal Injury Due to the Incorrect Insertion of a Vagi-Pipe Into the Rectum During Total Laparoscopic Hysterectomy: A Case Report.	Cureus・2025年1月17巻1号e78219ページ	Case report
122	Kawano, S/ Yoshida, H/ Kikkawa, N/他	婦人腫瘍科	Underrecognized diagnostic discordance and delay in endometrial dedifferentiated and undifferentiated carcinoma.	The journal of obstetrics and gynaecology research・2025年3月51巻3号e16260ページ	Original Article
123	Natsume, T/ Kobayashi-Kato, M/ Yoshida, H/他	婦人腫瘍科	Laparoscopic Resection of Central Ovarian Cancer Recurrence in the Pelvis Utilizing a Fluorescent Ureteral Near-Infrared Ray Catheter (NIRC): A Case Report.	Cureus・2025年2月17巻2号e78970ページ	Case report
124	Fukushima, T/ Okita, Y/ Watanabe, N/他	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Evaluation of clinical factors associated with early postoperative physical function and lower extremity functional impairment in patients with soft tissue sarcoma.	Disability and rehabilitation・2024年7月46巻15号3426-3431ページ	Original Article
125	Kawai, A/ Yoshida, / Shimoi, T/他	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Histological diagnostic discrepancy and its clinical impact in bone and soft tissue tumors referred to a sarcoma center.	Cancer science・2024年8月115巻8号2831-2838ページ	Original Article
126	Ogura, K/ Morizane, C/ Satake, T/他	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Statistics of bone sarcoma in Japan: report from the population-based cancer registry in Japan.	International journal of clinical oncology・2024年9月29巻9号1209-1219ページ	Original Article
127	Ogura, K/ Morizane, C/ Satake, T/他	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Soft-tissue sarcoma in Japan: National Cancer Registry-based analysis from 2016 to 2019.	Japanese journal of clinical oncology・2024年11月54巻11号1150-1157ページ	Original Article
128	Toda, Y/ Ogura, K/ Iwata, S/他	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	The diagnostic and prognostic value of tartrate-resistant acid phosphatase isoform 5b for giant cell tumor of bone.	International journal of clinical oncology・2024年9月29巻9号1391-1397ページ	Original Article
129	Tsuchiya, K/ Akisue, T/ Ehara, S/他	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Japanese orthopaedic association (JOA) clinical practice guideline on the management of primary malignant bone tumors - Secondary publication.	Journal of orthopaedic science・2025年1月30巻1号1-17ページ	Original Article
130	Takemori, T/ Ogura, K/ Morizane, C/他	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Clear cell sarcoma in Japan: an analysis of the population-based cancer registry in Japan.	Japanese journal of clinical oncology・2024年12月54巻12号1281-1287ページ	Original Article
131	Muramatsu, S/ Ogura, K/ Morizane, C/他	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Statistics of Visceral Sarcoma in Japan: Report From the Population-Based National Cancer Registry (NCR) in Japan.	Journal of surgical oncology・2025年2月131巻2号274-284ページ	Original Article
132	Sekita, T/ Asano, N/ Kobayashi, H/他	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Long-term functional outcome of limb-sparing surgery for paediatric bone sarcoma around the knee.	Bone & joint open・2024年10月5巻10号868-878ページ	Original Article
133	Sekita, T/ Asano, N/ Kubo, T/他	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Early separation and parallel clonal selection of dedifferentiated and well-differentiated components in dedifferentiated liposarcoma.	Neoplasia (New York, N.Y.)・2025年1月59巻号101074ページ	Original Article
134	Takemori, T/ Ogura, K/ Morizane, C/他	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Incidence and site specific characteristics of angiosarcoma in Japan using a population-based national cancer registry from 2016 to 2019.	Scientific reports・2025年3月15巻1号9960ページ	Original Article
135	Wada, S/ Nakano, E/ Nakajima, M/他	皮膚腫瘍科	Congenital dermatofibrosarcoma protuberans on the scalp enlarging and shrinking repeatedly.	The Journal of dermatology・2024年6月51巻6号e196-e197ページ	Case report
136	Tsuruta, S/ Matsuguma, K/ Kawasaki, N/他	皮膚腫瘍科	Olanzapine for chemotherapy-induced nausea and vomiting control.	The Lancet. Oncology・2024年5月25巻5号e176ページ	Original Article
137	Nakano, E/ Takahashi, A/ Ogata, D/他	皮膚腫瘍科	Real-world efficacy and safety of BRAF-targeted therapy for patients with advanced melanoma: A single-center retrospective study in Japan.	The Journal of dermatology・2024年9月51巻9号1199-1207ページ	Original Article
138	Fukuda, A/ Ogata, D/ Oshima, Y/他	皮膚腫瘍科	Grade 3 acute kidney injury caused anti-glomerular basement membrane nephritis during immune checkpoint inhibitor treatment for melanoma.	The Journal of dermatology・2025年2月52巻2号e168-e169ページ	Case report

139	Tsuruta, S/ Ogata, D/ Namikawa, K/他	皮膚腫瘍科	A review of cutaneous apocrine carcinoma: epidemiology, diagnosis, prognosis, and treatment options.	Japanese journal of clinical oncology・2024年11月54巻11号1135-1140ページ	Review
140	Ogata, D/ Namikawa, K/ Nakano, E/他	皮膚腫瘍科	Comprehensive epidemiology of melanoma at all sites: insights from Japan's National Cancer Registry, 2016-2017.	International journal of clinical oncology・2025年2月30巻2号194-198ページ	Review
141	Izutsu, K/ Ubukawa, K/ Morishita, T/他	血液腫瘍科	Glasdegib with intensive/nonintensive chemotherapy in Japanese patients with untreated acute myeloid leukemia or high-risk myelodysplastic syndromes.	Cancer science・2024年4月115巻4号1250-1260ページ	Original Article
142	Watanabe, T/ Matsuno, Y/ Wakabayashi, M/他	血液腫瘍科	Analyzing the risk factors for disease progression within 2 years and histological transformation in patients treated with rituximab plus cyclophosphamide, doxorubicin, vincristine, and prednisone as first-line treatment: A 15-year follow-up of patients with advanced follicular lymphoma in JCOG0203.	Hematological oncology・2024年5月42巻3号e3272ページ	Original Article
143	Izutsu, K/ Kato, H/ Sekiguchi, N/他	血液腫瘍科	A phase 2, open-label study of ibrutinib plus rituximab in Japanese patients with Waldenstrom's macroglobulinemia.	International journal of hematology・2024年7月120巻1号80-90ページ	Original Article
144	Izutsu, K/ Ando, K/ Nishikori, M/他	血液腫瘍科	Tazemetostat for relapsed/refractory B-cell non-Hodgkin lymphoma with EZH2 mutation in Japan: 3-year follow-up for a phase II study.	International journal of hematology・2024年11月120巻5号621-630ページ	Original Article
145	Maruyama, D/ Jacobsen, E/ Porcu, P /他	血液腫瘍科	Valemetostat monotherapy in patients with relapsed or refractory non-Hodgkin lymphoma: a first-in-human, multicentre, open-label, single-arm, phase 1 study.	The Lancet. Oncology・2024年12月25巻12号1589-1601ページ	Original Article
146	Munakata, W/ Kumode, T/ Goto, H /他	血液腫瘍科	A phase II study of zandelisib in patients with relapsed or refractory indolent non-Hodgkin lymphoma: ME-401-K02 study.	British journal of haematology・2025年2月206巻2号541-550ページ	Original Article
147	Hosoba, R/ Fukuhara, S/ Kogure, Y/他	血液腫瘍科	Whole exome sequencing analysis of a patient with myeloid/lymphoid neoplasms with eosinophilia and tyrosine kinase gene fusions with ETV6::LYN fusion gene.	Annals of hematology・2025年1月104巻1号809-813ページ	Case report
148	Akahoshi, Y/ Spyrou, N/ Hoepting, M/他	造血幹細胞移植科	Flares of acute graft-versus-host disease: a Mount Sinai Acute GVHD International Consortium analysis.	Blood advances・2024年4月8巻8号2047-2057ページ	Original Article
149	Akahoshi, Y	造血幹細胞移植科	Selection of statistical tests considering competing risks: the importance of understanding the assumptions in each test.	Blood advances・2024年5月8巻10号2571-2572ページ	Letter
150	Akahoshi, Y/ Spyrou, N/ Weber, D /他	造血幹細胞移植科	Novel MAGIC composite scores using both clinical symptoms and biomarkers best predict treatment outcomes of acute GVHD.	Blood・2024年8月144巻9号1010-1021ページ	Original Article
151	Tamaki, M/ Akahoshi, Y/ Inamoto, Y/他	造血幹細胞移植科	Associations between acute and chronic graft-versus-host disease.	Blood advances・2024年8月8巻16号4250-4261ページ	Original Article
152	Watanabe, Y/ Chen, Y/ Igaki, H/他	小児腫瘍科	Boron neutron capture therapy prolongs survival in a patient with a recurrent malignant peripheral nerve sheath tumor-A case report.	Pediatric blood & cancer・2024年7月71巻7号e31011ページ	Letter
153	Sugiyama, M/ Arakawa, A/ Iwata, S/他	小児腫瘍科	Feasibility of multimodal therapy for rhabdomyosarcoma in a patient with Fukuyama congenital muscular dystrophy.	Pediatric blood & cancer・2024年7月71巻7号e31036ページ	Letter
154	Nakajima, M/ Arakawa, A/ Ogawa C	小児腫瘍科	Japan's contribution to an ongoing global pediatric cancer clinical trial:The experience of the National Cancer Center Hospital (NCCH) in Tokyo.	EJC Pediatric Oncology・2024年3月3巻号100157ページ	Original Article
155	Yoneda, A/ Shichino, H/ Hishiki, T /他	小児腫瘍外科	A nationwide phase II study of delayed local treatment for children with high-risk neuroblastoma: The Japan Children's Cancer Group Neuroblastoma Committee Trial JN-H-11.	Pediatric blood & cancer・2024年6月71巻6号e30976ページ	Original Article

156	Takamizawa, S/ Ishiki, H/ Oyamada, S/ Takeda, Y/他	緩和医療科	Psychological symptom burden associated with malignant wounds: Secondary analysis of a prospective cohort study.	Palliative & supportive care・2024年4月22巻2号396-403ページ	Original Article
157	Takeda, Y/ Ishiki, H/ Oyamada, S他	緩和医療科	Symptoms and Prognoses of Patients With Breast Cancer and Malignant Wounds in Palliative Care Units: The Multicenter, Prospective, Observational EASED Study.	The American journal of hospice & palliative care・2024年12月41巻12号1373-1379ページ	Original Article
158	Ikegami, T/ Ishiki, H/ Kadono, T/他	緩和医療科	Narrative review of malignant ascites: epidemiology, pathophysiology, assessment, and treatment.	Annals of palliative medicine・2024年7月13巻4号842-857ページ	Review
159	Kawasaki, N/ Ishiki, H/ Arakawa, S/他	緩和医療科	Myofascial pain syndrome in patients with cancer: a narrative review.	BMJ supportive & palliative care・2024年8月巻号spcare-2024-005064ページ	Review
160	Takamizawa, S/ Ishiki, H/ Takeda, Y/ 他	緩和医療科	Prognostic Impact of Malignant Wounds in Patients With Head and Neck Cancer: Secondary Analysis of a Prospective Cohort Study.	Cancer control・2024年1-12月31巻号10732748241274216ページ	Original Article
161	Yamaguchi, J/ Sadahiro, R/ Hirayama, T/他	精神腫瘍科	Severe behavioral and psychological symptoms of dementia successfully treated at home with a blonanserin transdermal patch: A case report.	Neuropsychopharmacology reports・2024年6月44巻2号474-478ページ	Case report
162	Matsuoka, Hi/ Takeuchi, E/ Kato, M	精神腫瘍科	Physical symptoms in prolonged grief disorder: a case report.	Annals of palliative medicine・2024年11月13巻6号1530-1536ページ	Case report
163	Yamaguchi, J/ Sadahiro, R/ Wada, S/他	精神腫瘍科	A case report of benzodiazepine withdrawal delirium due to accidental discontinuation of benzodiazepines in cancer perioperative period.	PCN reports : psychiatry and clinical neurosciences・2024年12月3巻4号e70026ページ	Case report
164	Yamaguchi, J/ Sadahiro, R/ Wada, S/他	精神腫瘍科	Development of cefepime-induced encephalopathy in a patient with depression and rectal cancer: A case report.	Neuropsychopharmacology reports・2025年3月45巻1号e12502ページ	Case report
165	Kimura, S/ Sone, M/ Sugawara, S/他	放射線診断科	Safety of propofol sedation administered by interventional radiologists for radiofrequency ablation in patients with hepatocellular carcinoma.	Japanese journal of radiology・2024年11月42巻11号1290-1297ページ	Original Article
166	Kikkawa, N/ Sugawara, H/ Yoshida, H/他	放射線診断科	Characteristics of the magnetic resonance imaging findings of cervical gastric-type adenocarcinoma.	Clinical radiology・2024年10月79巻10号e1189-e1195ページ	Original Article
167	Koretsune, Y/ Sugawara, S/ Sone, M/ Higashihara, H/他	放射線診断科	Inversion of Central Venous Ports in Children Under Six Years Old: A Retrospective Analysis of 154 Oncology Patients.	Cureus・2024年6月16巻6号e63106ページ	Original Article
168	Sugawara, S/ Sone, M/ Umino, R/他	放射線診断科	Safety and feasibility of percutaneous abdominal lavage cytology screening (PACS) prior to surgical resection for pancreatic cancer.	Abdominal radiology (New York)・2024年12月49巻12号4365-4372ページ	Original Article
169	Tanishima, T/ Kurokawa, R/ Sone, M/他	放射線診断科	Radiological features of pancreatic desmoid-type fibromatosis: a case series and systematic review.	Abdominal radiology (New York)・2025年2月50巻2号839-850ページ	Original Article
170	Itou, C/ Sone, M/ Arai, Y/他	放射線診断科	Percutaneous core needle biopsy for para-aortic retroperitoneal lesions: impact of size and location on diagnostic accuracy of computed tomography-guided biopsy and feasibility of ultrasound guidance.	Clinical radiology・2025年1月80巻号106723ページ	Original Article
171	Tanishima, T/ Kurokawa, R/ Sone, M/他	放射線診断科	Radiological features of desmoid-type fibromatosis: a two-institution retrospective study.	European radiology・2025年3月35巻3号1394-1404ページ	Original Article
172	Nakama, R/ Sone, M/ Sugawara, S/他	放射線診断科	Investigation of tube replacement cases of percutaneous transesophageal gastro-tubing in cancer patients.	Japanese journal of radiology・2025年3月巻号ページ	Original Article
173	Kashihara, T/ Nakamura, S/ Yamazaki, N/他	放射線治療科	Boron neutron capture therapy for cutaneous angiosarcoma and malignant melanoma: First in-human phase I clinical trial.	Radiotherapy and oncology・2025年1月202巻号110607ページ	Original Article
174	Kashihara, T/ Urago, Y/ Okamoto, H /他	放射線治療科	A preliminary study on rectal dose reduction associated with hyaluronic acid implantation in brachytherapy for prostate cancer.	Asian journal of urology・2024年4月11巻2号286-293ページ	Original Article

175	Nagao, A/ Murakami, N/ Sakuramachi, M/ 他	放射線治療科	Role of the gel spacer in safely delivering whole pelvic radiation therapy without central shielding in computed tomography-based image-guided adaptive brachytherapy for uterine cervical cancer patients.	Brachytherapy・2024年9-10月23巻5号595-603ページ	Original Article
176	Takahashi, K/ Kagami, Y/ Yoshimura, R/他	放射線治療科	Prospective study of once-daily accelerated partial breast irradiation using 3-dimensional conformal external beam radiotherapy for Japanese women: 12-year outcomes, toxicity, and cosmesis.	Breast cancer (Tokyo, Japan)・2025年1月32巻1号197-207ページ	Original Article
177	Yamamoto, N/ Koyama, T/ Sato, J/ 他	先端医療科	Phase I study of the anti-TIGIT antibody tiragolumab in combination with atezolizumab in Japanese patients with advanced or metastatic solid tumors.	Cancer chemotherapy and pharmacology・2024年7月94巻1号109-115ページ	Original Article
178	Katsuya, Y/ Yoshida, T/ Takashima, A/他	先端医療科	Immunogenicity after vaccination of COVID-19 vaccines in patients with cancer: a prospective, single center, observational study.	International journal of clinical oncology・2024年4月29巻4号386-397ページ	Original Article
179	Yamamoto, N/ Satouchi, M/ Doi, T/ 他	先端医療科	KEYNOTE-434 part B: A phase 1 study evaluating the combination of epacadostat, pembrolizumab, and chemotherapy in Japanese patients with previously untreated advanced non-small-cell lung cancer.	Investigational new drugs・2024年6月42巻3号261-271ページ	Original Article
180	Hirata, T/ Uehara, Y/ Hakozaiki, T/他	先端医療科	Brief Report: Clinical Outcomes by Infusion Timing of Immune Checkpoint Inhibitors in Patients With Locally Advanced NSCLC.	JTO clinical and research reports・2024年4月5巻4号100659ページ	Original Article
181	Yamamoto, N/ Kuboki, Y/ Harano, K/他	先端医療科	A phase 1/1b, open-label, dose-escalation study of PD-1 inhibitor, cetrelimab alone and in combination with FGFR inhibitor, erdafitinib in Japanese patients with advanced solid tumors.	Investigational new drugs・2024年8月42巻4号376-385ページ	Original Article
182	Yamamoto, N/ Kitano, S/ Koyama, T/他	先端医療科	Phase I study of the safety and clinical activity of the interleukin-8 inhibitor AMY109 combined with atezolizumab in patients with advanced solid cancers.	Journal for immunotherapy of cancer・2024年7月12巻7号e009262ページ	Original Article
183	Uehara, Y/ Kato, S/ Nishizaki, D/他	先端医療科	4-1BB transcriptomic expression patterns across malignancies: Implications for clinical trials of 4-1BB agonists.	Cancer communications (London, England)・2024年10月44巻10号1168-1172ページ	Original Article
184	Koyama, T/ Yonemori, K/ Shimizu, T/他	先端医療科	Phase I Study of Simlukafusp Alfa (FAP-IL2v) with or without Atezolizumab in Japanese Patients with Advanced Solid Tumors.	Cancer research communications・2024年9月4巻9号2349-2358ページ	Original Article
185	Sato, J/ Sadachi, R/ Koyama, T/他	先端医療科	Regional diversity in drug-induced lung diseases among the USA, European Union, and Japan.	Frontiers in medicine・2024年9月11巻号1390083ページ	Original Article
186	Uehara, Y/ Izumi, H/ Taki, T/他	先端医療科	Solid Predominant Histology and High Podoplanin Expression in Cancer-Associated Fibroblast Predict Primary Resistance to Osimertinib in EGFR-Mutated Lung Adenocarcinoma.	JTO clinical and research reports・2025年3月6巻3号100779ページ	Original Article
187	Okada, M/ Suzuki, E/ Morizane, C /他	先端医療科	Impact of clinically diagnosed liver cirrhosis in patients with intrahepatic cholangiocarcinoma treated with systemic chemotherapy: a subgroup analysis of JCOG1113.	Japanese journal of clinical oncology・2025年3月55巻6号594-602ページ	Original Article
188	Uehara, Y/ Takeyasu, Y/ Yoshida, T/他	先端医療科	Real-world outcomes of treatment strategy between first-line osimertinib, first-/second-generation EGFR-TKIs followed by osimertinib and without osimertinib in advanced EGFR-mutant NSCLC.	ESMO Real World Data and Digital Oncology・2024年9月5巻号100058ページ	Original Article
189	Uehara, Y/ Tan, A	先端医療科	The Butterfly effect—will the MARIPOSA-2 study alter the trajectory of EGFR mutated non-small cell lung cancer (NSCLC).	AME Clinical Trials Review, North America・2024年6月2巻号33ページ	Others

190	Okuma, Y/ Nomura, S/ Sakakibara-Konishi, J/他	希少がんセンター	Artemis: A Multicenter, Open-Label, Single-Arm, Phase II Study to Evaluate the Efficacy and Safety of First-Line Carboplatin/Paclitaxel/Lenvatinib/Pembrolizumab Combination for Previously Untreated Advanced or Recurrent Thymic Carcinomas	Clinical lung cancer・2024年6月25巻4号389-394ページ	Original Article
191	Umino, R/ Nara, S/ Mizui, T/他	希少がんセンター	ASO Visual Abstract: Impact of Surgical Margin Status on Survival and Recurrence After Pancreaticoduodenectomy for Distal Cholangiocarcinoma: Is Microscopic Residual Tumor (R1) Associated with Higher Rates of Local Recurrence?	Annals of surgical oncology・2024年8月31巻12号8358-8359ページ	Others
192	Iwata, S/ Ono, T/ Noguchi, R/他	希少がんセンター	Establishment and characterization of NCC-GCTB14-C1 and NCC-GCTB15-C1: two novel patient-derived cell lines of giant cell tumor of bone	Human cell・2024年11月38巻1号20ページ	Original Article
193	Sano, Y/ Kanai, M/ Morizane, C/他	臨床研究支援部門	Protocol digest of a randomized phase III trial comparing S-1-based chemoradiotherapy with/without nivolumab for unresectable locally advanced or borderline resectable pancreatic cancer: JCOG1908E (PENETRATE)	Japanese journal of clinical oncology・2024年11月54巻11号1214-1218ページ	Original Article
194	Kita, R/ Shimada, K/ Machida, R/他	臨床研究支援部門	Multicenter randomized phase III study of high-dose therapy with autologous stem cell transplantation versus observation for patients with newly diagnosed peripheral T-cell lymphoma who achieved complete metabolic response after induction therapy (JCOG2210, TRANSFER study)	Japanese journal of clinical oncology・2025年2月55巻2号183-188ページ	Original Article
195	Sekino, Y/ Hishida, T/ Yoshioka, H /他	臨床研究支援部門	Protocol summary of a randomized phase III study: comparing systemic therapy with and without debulking surgery (primary tumour resection) for clinical stage IVA (cT1-2bN0-1M1a) non-small cell lung cancer with radiologically undetermined pleural dissemination JCOG2103 (DEBULK-LUNG).	Japanese journal of clinical oncology・2025年2月55巻2号176-182ページ	Original Article
196	Kita, R/ Yasufuku, It/ Takahashi, N/他	臨床研究支援部門	Randomized controlled phase III study comparing chemotherapy alone versus conversion surgery after a remarkable response to chemotherapy in patients with initially unresectable cStage IVB or pStage IV gastric cancer (JCOG2301 Conversion study).	Japanese journal of clinical oncology・2025年3月55巻3号304-310ページ	Original Article
197	Sekino, Y/ Sonoda, Y/ Shibahara, I/他	臨床研究支援部門	Protocol digest of a phase III randomized trial of gross total resection versus possible resection of fluid-attenuated inversion recovery-hyperintense lesion on MRI for newly diagnosed supratentorial glioblastoma: JCOG2209 (FLAMINGO)	Japanese journal of clinical oncology・2025年1月55巻1号75-79ページ	Original Article
198	Sasaki, K/ Mizusawa, J/ Bando, H/他	臨床研究支援部門	Consideration of factors of low accrual and methods for setting appropriate accrual periods: Japan Clinical Oncology Group study.	Trials・2024年10月25巻1号665ページ	Original Article
199	Kita, R/ Ito, K/ Machida, R/他	臨床研究支援部門	Randomized phase III study comparing re-irradiation stereotactic body radiotherapy and conventional radiotherapy for painful spinal metastases: Japan Clinical Oncology Group study JCOG2211 (RESCORE study).	Japanese journal of clinical oncology・2025年2月55巻2号189-193ページ	Original Article
200	Tomozawa, C/ Kaneko, M/ Sasaki, M/他	遺伝子診療部門	Clients' experiences of empathy in genetic counseling for hereditary breast and ovarian cancer: A qualitative study in Japan.	Journal of genetic counseling・2025年2月34巻1号e1920ページ	Original Article
201	Nakahara, M/ Ushijima, M/ Tanabe, N/他	遺伝子診療部門	Multi-gene panel analysis in BRCA1/2-negative patients suspected of hereditary breast and ovarian cancer syndrome: Real-world data from a single institution.	The journal of obstetrics and gynaecology research・2024年9月50巻9号1591-1597ページ	Original Article

202	Sekiguchi, M/ Matsuda, T/ Saito, Y	検診部門	Treatment strategy and post-treatment management of colorectal neuroendocrine tumor.	DEN open・2024年4月4巻1号e254ページ	Review
203	Nakamura, K/ Kakukgawa, Y/ Sekiguchi, M/他	検診部門	Chronological Trend of Opportunistic Endoscopic Screening for Gastric Cancer and Atrophic Gastritis.	Asian Pacific journal of cancer prevention : APJCP・2024年4月25巻4号1247-1255ページ	Original Article
204	Sekiguchi, M/ Westerberg, M/ Löwbeer, C/他	検診部門	Endoscopist adenoma detection rate associated with neoplasia detection during subsequent-round colonoscopy in fecal immunochemical test-based colorectal cancer screening: cross-sectional analysis of the SCREESCO randomized controlled trial	Gastrointestinal endoscopy・2025年2月巻号S0016-5107(25)00067-7ページ	Original Article
205	Sekiguchi, M/ Shinmura, K/ Sumiyama, K/他	検診部門	Protocol for a multicenter randomized controlled trial to assess the usefulness of computer-aided detection systems for colonoscopy in colorectal cancer screening in the Asia-Pacific region (project CAD/NCCH2217).	Japanese journal of clinical oncology・2025年3月巻号hyaf043ページ	Original Article
206	Takahashi, Y/ Kaimi, Y/ Taniguchi, H/他	病理診断科	Clinicopathological differences between T-lymphoblastic leukemia/lymphoma, early T-precursor lymphoblastic leukemia/lymphoma, and mixed-phenotype acute leukemia with T lineage: An analysis of 41 adult cases.	Human pathology・2024年8月150巻号78-85ページ	Original Article
207	Nishino, S/ Kojima, N/ Sugino, H/他	病理診断科	MUC5AC immunoreactivity in scattered tumor cells is useful for diagnosing CIC-rearranged sarcoma.	Virchows Archiv・2024年8月485巻2号359-363ページ	Original Article
208	Kaimi, Y/ Naka, T/ Yoshida, H/他	病理診断科	Histopathology of peritonitis due to infectious mononucleosis with background Chlamydia trachomatis infection: A case report and literature review.	Pathology international・2024年10月74巻10号611-617ページ	Case report
209	Maeshima, A/ Taniguchi, H/ Takahashi, Y/他	病理診断科	Heterogeneity or change in cell of origin in diffuse large B-cell lymphomas determined using hans algorithm.	Human pathology・2024年9月151巻号105630ページ	Original Article
210	Kishikawa, S/ Kondo, A/ Yao, T/他	病理診断科	Case report: A mesenchymal chondrosarcoma with alternative HEY1::NCOA2 fusions in the sella turcica.	Pathology oncology research : POR・2024年8月30巻号1611730ページ	Case report
211	Kojima, N/ Nishino, S/ Sasahara, Y/他	病理診断科	Inflammatory spindle cell PEComa of the lung with YAP1::TFE3 fusion: a report of two cases and a potential relationship with clear cell stromal tumour.	Histopathology・2025年2月86巻3号365-372ページ	Original Article
212	Sato, C/ Sugiyama, M/ Mori, T/他	病理診断科	Pediatric Mesenchymal Tumor With MN1::TAF3 Fusion.	Genes, chromosomes & cancer・2024年11月63巻11号e70009ページ	Case report
213	Sakyo, A/ Ryo, E/ Nishino, S/他	病理診断科	NKX3.1 Helps Distinguish Hyalinizing Clear Cell Carcinoma From Other Clear Cell Salivary Gland Neoplasms.	Laboratory investigation; a journal of technical methods and pathology・2025年3月105巻3号102205ページ	Original Article
214	Takahashi, Y/ Yoshida, A/ Yoshimoto, S/他	病理診断科	TFE3-rearranged perivascular epithelioid cell tumors of the head and neck with rare fusion partners: clues to the differential diagnosis between benign and malignant tumors.	Diagnostic pathology・2025年1月20巻1号7ページ	Original Article
215	Nishino, S/ Mori, T/ Umezumi, H/他	病理診断科	Nosologic Reappraisal of the Recently Proposed Calcified Chondroid Mesenchymal Neoplasm Concept in a Series of 20 Cases.	Modern pathology・2025年3月38巻7号100762ページ	Original Article
216	Kubo, T/ Sunami, K/ Koyama, T/他	臨床検査科	The impact of rare cancer and early-line treatments on the benefit of comprehensive genome profiling-based precision oncology.	ESMO open・2024年4月9巻4号102981ページ	Original Article
217	Aruga, Y/ Ikeda, C/ Matsushita, H/他	臨床検査科	The kappa/lambda ratio of surface immunoglobulin light chain as a valuable parameter for MRD assessment in CLL with atypical immunophenotype.	Scientific reports・2024年6月14巻1号13452ページ	Original Article
218	Matsui, H	臨床検査科	DDX41 and its unique contribution to myeloid leukemogenesis.	Oncotarget・2024年7月15巻号442-443ページ	Others
219	Nakamura, K/ Takeda, K/ Saito, A /他	国際開発部門	Transitional dynamics in oncology clinical trials: evaluating the impact of Clinical Trials Act on cooperative groups.	Japanese journal of clinical oncology・2024年7月54巻7号748-752ページ	Original Article

220	Ikeda, G/ Miyakoshi, J/ Yamamoto, S/他	頭頸部・食道内科	Nivolumab in unresectable advanced, recurrent or metastatic esophageal squamous cell carcinoma.	Future oncology (London, England)・2024年4月20巻11号665-677ページ	Review
221	Yada, M/ Yamamoto, S/ Honma, Y/他	頭頸部・食道内科	Retrospective Analysis of Definitive Chemoradiotherapy With FOLFOX in Patients With Esophageal Cancer Intolerant to Cisplatin.	In vivo (Athens, Greece)・2024年3-4月38巻2号761-766ページ	Original Article
222	Hirose, T/ Yamamoto, S/ Honma, Y/他	頭頸部・食道内科	Preoperative docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil for resectable locally advanced esophageal and esophagogastric junctional adenocarcinoma.	Esophagus・2024年7月21巻3号328-335ページ	Original Article
223	Kato, K/ Kojima, T/ Hara, H/他	頭頸部・食道内科	First-line pembrolizumab plus chemotherapy for advanced/metastatic esophageal cancer: 1-year extended follow-up in the Japanese subgroup of the phase 3 KEYNOTE-590 study.	Esophagus・2024年7月21巻3号306-318ページ	Original Article
224	Yamamoto, K/ Yamamoto, S/ Kato, K	頭頸部・食道内科	Pembrolizumab for recurrent locally advanced or metastatic squamous cell carcinoma of the esophagus: a drug safety evaluation.	Expert opinion on drug safety・2024年6月23巻6号667-675ページ	Review
225	Kato, K/ Doki, Y/ Chau, I/他	頭頸部・食道内科	Nivolumab plus chemotherapy or ipilimumab versus chemotherapy in patients with advanced esophageal squamous cell carcinoma (CheckMate 648): 29-month follow-up from a randomized, open-label, phase III trial.	Cancer medicine・2024年5月13巻9号e7235ページ	Original Article
226	Ogura, N/ Yamamoto, Sh/ Kato, K	頭頸部・食道内科	Progress in second-line antibody therapies for advanced esophageal squamous cell carcinoma.	Expert opinion on biological therapy・2024年6月24巻6号503-509ページ	Review
227	Kadono, T/ Yamamoto, S/ Kato, K	頭頸部・食道内科	Development of perioperative immune checkpoint inhibitor therapy for locally advanced esophageal squamous cell carcinoma.	Future oncology (London, England)・2024年月20巻28号2097-2107ページ	Review
228	Kato, K/ Machida, R/ Ito, Y/ 他	頭頸部・食道内科	Doublet chemotherapy, triplet chemotherapy, or doublet chemotherapy combined with radiotherapy as neoadjuvant treatment for locally advanced oesophageal cancer (JCOG1109 NExT): a randomised, controlled, open-label phase 3 trial.	Lancet (London, England)・2024年7月404巻10447号55-66ページ	Original Article
229	Honma, Y/ Monden, N/ Yamazaki, K/他	頭頸部・食道内科	Apalutamide and Goserelin for Androgen Receptor-Positive Salivary Gland Carcinoma: A Phase II Nonrandomized Clinical Trial, YATAGARASU.	Clinical cancer research・2024年8月30巻16号3416-3427ページ	Original Article
230	Murashima, Y/ Yamamoto, S/ Hirose, T/他	頭頸部・食道内科	Efficacy and Safety of Salvage-line Nivolumab Monotherapy for Advanced Esophageal Squamous Cell Carcinoma: Comparison of 240 mg Versus 480 mg Doses.	Journal of gastrointestinal cancer・2024年9月55巻3号1345-1351ページ	Original Article
231	Itoyama, M/ Ohara, A/ Yokoyama, K/他	頭頸部・食道内科	An autopsy case of pulmonary tumor thrombotic microangiopathy that developed during chemotherapy for salivary duct carcinoma of the parotid gland.	Auris, nasus, larynx・2024年10月51巻5号829-833ページ	Original Article
232	Yokoyama, K/ Wasano, K/ Sasaki, K /他	頭頸部・食道内科	Frequency of use and cost in Japan of first-line palliative chemotherapies for recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck.	Japanese journal of clinical oncology・2024年10月54巻10号1115-1122ページ	Original Article
233	Shiraishi, K/ Takeyasu, Y/ Yamamoto, S/他	頭頸部・食道内科	Impact of taxanes after PD-1 blockade exposure in advanced esophageal squamous cell carcinoma.	Esophagus・2024年10月21巻4号539-545ページ	Original Article
234	Yamamoto, S/ Kato, K/ Daiko, H/他	頭頸部・食道内科	Factors influencing decision-making between surgery and chemoradiotherapy for esophageal carcinoma from the JCOG0502.	Future oncology (London, England)・2024年9月20巻36号2849-2854ページ	Others
235	Ohara, A/ Mori, T/ Itoyama, M/他	頭頸部・食道内科	Relationship Between Short-Term Outcomes and PD-L1 Expression Based on Combined Positive Score and Tumor Proportion Score in Recurrent or Metastatic Head and Neck Cancers Treated With Anti-PD-1 Antibody Monotherapy.	Cancer reports (Hoboken, N.J.)・2025年1月8巻1号e70125ページ	Original Article

236	Igaue, S/ Yamamoto, S/ Shiraishi, K/他	頭頸部・食道内科	Correlation Between Histopathological Response of Esophageal Squamous Cell Carcinoma to Neoadjuvant DCF Therapy and the Clinical Efficacy of Palliative Chemotherapy for Recurrence.	Journal of gastrointestinal cancer・2025年2月56巻1号60ページ	1:Original Article
237	Shiraishi, K/ Yamamoto, S/ Imazeki, H/他	頭頸部・食道内科	Could combination immunotherapy give light to resectable esophageal squamous cell carcinoma?.	Journal of thoracic disease・2025年1月17巻1号15-18ページ	Others
238	Shiraishi, K/ Okada, M/ Yamamoto, S/他	頭頸部・食道内科	The efficacy and safety of FOLFOX therapy for advanced esophageal squamous cell carcinoma.	Scientific reports・2025年3月15巻1号8031ページ	Original Article
239	Watanabe, T/ Oka, H/ Nagashima, K /他	頭頸部・食道内科	Clinical outcomes of recurrent or metastatic head and neck cancer after failure of platinum and nivolumab: a multicenter retrospective study.	The oncologist・2025年3月30巻3号oyaf018ページ	Original Article
240	Yokoyama, K/ Inamoto, Y/ Kubo, Y/他	頭頸部・食道内科	Increased adverse events associated with chemotherapy and radiotherapy in patients with second primary esophageal cancer after hematologic malignancy.	Annals of Esophagus・2024年9月7巻号1-11ページ	Original Article
241	Ikeda, G/ Yamamoto, S/ Azuma, I/他	頭頸部・食道内科	Clinical utility of pegfilgrastim on day 3 of preoperative docetaxel, cisplatin and 5-fluorouracil chemotherapy in elderly patients with resectable esophageal cancer.	Annals of Esophagus・2024年9月7巻号18ページ	Original Article
242	Nishikawa, T/ Kakunaga, S/ Tamura, K/他	腫瘍内科	Efficacy and safety of nivolumab monotherapy in patients with unresectable clear cell sarcoma and alveolar soft part sarcoma (OSCAR Trial/NCCH1510).	Cancer・2024年11月130巻22号3836-3844ページ	Original Article
243	Noguchi, E/ Yamanaka, T/ Mukai, H /他	腫瘍内科	A phase 3 study (PATHWAY) of palbociclib plus tamoxifen in patients with HR-positive/HER2-negative advanced breast cancer.	NPJ breast cancer・2024年8月10巻1号76ページ	Original Article
244	Yonemori, K/ Boni, V/ Min, K/他	腫瘍内科	Imlunestrant, an oral selective estrogen receptor degrader, as monotherapy and combined with abemaciclib, in recurrent/advanced ER-positive endometrioid endometrial cancer: Results from the phase 1a/1b EMBER study.	Gynecologic oncology・2024年12月191巻号172-181ページ	Original Article
245	Imai, T/ Kojima, Y/ Shimoi, T/他	腫瘍内科	Predicting Trabectedin Efficacy in Soft Tissue Sarcoma: Inflammatory Biomarker Analysis.	Anticancer research・2024年5月44巻5号2125-2132ページ	Original Article
246	Chiba, Y/ Kojima, Y/ Yazaki, S/他	腫瘍内科	Trop-2 expression and the tumor immune microenvironment in cervical cancer.	Gynecologic oncology・2024年8月187巻号51-57ページ	Original Article
247	Imai, T/ Shoji, H/ Hirano, H他	腫瘍内科	BRAF V600E-mutant colorectal cancer with CNS metastases treated successfully with encorafenib, binimetinib and cetuximab.	CNS oncology・2024年6月13巻1号2347824ページ	Case report
248	Yazaki, S/ Chiba, Y/ Kojima, Y/他	腫瘍内科	Folate Receptor Alpha Expression and the Tumor Immune Microenvironment in Patients with Cervical Cancer.	International journal of gynecological pathology・2025年3月44巻2号104-111ページ	Original Article
249	Mizoguchi, C/ Nishikawa, T/ Yoshida, H/他	腫瘍内科	HER2-negative or low expression as an unfavorable prognostic factor in patients with stage I/II uterine carcinosarcoma.	Journal of gynecologic oncology・2025年1月36巻1号e14ページ	Original Article
250	Kitadai, R/ Shimoi, T/ Yazaki, S /他	腫瘍内科	Clinicopathological and prognostic features of HER2-null and HER2-low advanced breast cancer treated with eribulin or capecitabine.	Breast cancer (Tokyo, Japan)・2024年11月31巻6号1037-1045ページ	Original Article
251	Yamanaka, T/ Ukita, J/ Xue, D /他	腫瘍内科	Artificial intelligence system for predicting hand-foot skin reaction induced by vascular endothelial growth factor receptor inhibitors.	Scientific reports・2025年3月15巻1号9843ページ	Original Article
252	Tokura, M/ Ando, M/ Kojima, Y/他	腫瘍内科	Multicenter Prospective Study in HER2-Positive Early Breast Cancer for Detecting Minimal Residual Disease by Circulating Tumor DNA Analysis With Neoadjuvant Chemotherapy: HARMONY Study.	Breast cancer : basic and clinical research・2024年10月18巻号11782234241288671ページ	Original Article

253	Yagishita, S/ Yamanaka, Y/ Kurata, T /他	臨床開発推進部門	Multicenter Pharmacokinetic and Pharmacodynamic Study of Pembrolizumab for Non-small-Cell Lung Cancer in Patients Aged 75 Years and Older.	Clinical pharmacology and therapeutics・2024年10月116巻4号1042-1051ページ	Original Article
254	Yagishita, S/ Goto, Y/ Nishio, M/他	臨床開発推進部門	Real-World Pharmacokinetics, Effectiveness, and Safety of Atezolizumab in Patients With Unresectable Advanced or Recurrent NSCLC: An Exploratory Study of J-TAIL	JTO clinical and research reports・2024年7月5巻7号100683ページ	Original Article
255					

計254件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名・出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
～					

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有・無
・ 手順書の主な内容 <研究倫理審査委員会標準業務手順書> ・ 委員会の運用規定 ・ 審査種別ごとの手順 など <対象指針> ・ 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 ・ 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 ・ ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
- 2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有・無
・ 規定の主な内容 臨床研究を含む当センターの研究に携わる者のCOI管理手順は、COI管理規程及びCOI委員会運営規程において定められている。 1. 管理対象	

管理対象については、COI管理規程第3条に定められており、臨床研究を行おうとする研究者が該当する。

2. 申告

研究者は、COI管理規程第5条第2項により、年一回の定期申告及びCOI状況の変動の都度申告を行う。

3. COI委員会

COI委員会は、COI管理規程第4条第3項及びCOI委員会運営規程第7条により、研究者より申告のあったCOIにつき、審査を行い、理事長と倫理委員会等に対し、意見等を述べる。COI委員会の事務局は、COI管理規程第4条第2項及びCOI委員会運営規程第4条により、研究支援センター生命倫理部COI管理室に置く。

4. 指導・管理

理事長は、COI委員会の意見に基づき、COIに関し、改善が必要と判断する場合、当該研究者に対し、当該研究への参加の取りやめまでも含む改善に向けた指導・管理を行う。

5. 臨床研究法対応

COI管理規程第4条第4項により、臨床研究法施行規則第21条第2項（いわゆる「事実確認」）に関する事務権限を理事長から研究支援センター生命倫理部COI管理室に委譲している。

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年約50回（原則週1回） 令和6年度審査件数：医学系 指针对象研究166件（1606 名）、医師主導治験102件（ 1963名）
---------------------------------------	--

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3 回
・研修の主な内容	

2024年7月27日 一家綱邦他「2024年度倫理審査委員会・治験審査委員会委員養成

2024年9月25日 田代志門「二重出版・二重投稿」

2025年3月25日 一家綱邦「scienceploitationがもたらす問題」

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

○がん専門修練医

新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み（旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み）、かつ、サブスペシャリティ領域専門医取得済み、もしくは取得見込みで、当院での研修により当該領域に特化した修練を目指す医師を対象とし、がんの診断・治療・研究に必要な高度先進的な知識と技術を有するがん診療の専門医を育成することを目的としている。研修年限は2年で、指導医のもとで高度の知識・技術の習得・開発、さらには臨床研究、トランスレーショナルリサーチ、基礎研究も実践する。各領域の将来のリーダーを目指す人材の育成を目的とした研修制度である。

○レジデント（3年コース・2年コース）

新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み、もしくは取得見込み（旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み）で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指す者を対象に複数診療科のローテーション研修、あるいは特定診療科の研修を通して、がんに関する幅広い知識と技術の習得を目指す。我が国を代表する指導医のもとでがん診療、がん研究に従事する。日本のがん医療を支える、すぐれたがん専門医を育成することを目的とした、国立がん研究センター教育・研修制度の中核となる研修制度である。2年コースについては研修開始時期が選択可能である。

○レジデント短期コース

がん医療の均てん化に貢献することを目的として、柔軟な研修開始時期、研修期間により研修者のニーズに幅広く対応することを目的とした研修制度である。研修時期は4月、7月、10月、1月から選択可能であり、研修期間は最短で6ヶ月、最長で1年6ヶ月までである。

○専攻医コース（基幹施設型・連携施設型）

新専門医制度のもと、当センターでの研修を希望される専門医の取得を目指す者を対象としたコースである。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	132.6	人
-------------	-------	---

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
成田 善孝	脳脊髄腫瘍科	科長	33 年	標榜診療科：脳神経外科
鈴木 茂伸	眼腫瘍科	科長	32 年	標榜診療科：眼科
吉本 世一	頭頸部外科	科長	34 年	標榜診療科：耳鼻咽喉科
加藤 健	頭頸部・食道内科	科長	30 年	標榜診療科：消化器内科
赤澤 聡	形成外科	科長	23 年	
高山 伸	乳腺外科	科長	30 年	
米盛 勸	腫瘍内科	科長	26 年	標榜診療科：内科
渡邊 俊一	呼吸器外科	科長	34 年	
大江 裕一郎	呼吸器内科	科長	40 年	

大幸 宏幸	食道外科	科長	31 年	標榜診療科：消化器外科
吉川 貴己	胃外科	科長	36 年	標榜診療科：消化器外科
金光 幸秀	大腸外科	科長	35 年	標榜診療科：消化器外科
加藤 健	消化管内科	科長	30 年	標榜診療科：消化器内科
斎藤 豊	内視鏡科	科長	25 年	標榜診療科：消化器内科
江崎 稔	肝胆膵外科	科長	31 年	標榜診療科：消化器外科
奥坂 拓志	肝胆膵内科	科長	35 年	標榜診療科：消化器内科
松井 喜之	泌尿器・後腹膜腫瘍科	科長	29 年	標榜診療科：泌尿器科
石川 光也	婦人腫瘍科	科長	29 年	標榜診療科：婦人科
川井 章	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	科長	40 年	標榜診療科：整形外科
山崎 直也	皮膚腫瘍科	科長	39 年	標榜診療科：皮膚科
伊豆津 宏二	血液腫瘍科	科長	31 年	標榜診療科：血液内科
福田 隆浩	造血幹細胞移植科	科長	35 年	標榜診療科：血液内科
小川 千登世	小児腫瘍科	科長	34 年	標榜診療科：小児科
上野 尚雄	歯科	医長	28 年	
佐藤 哲文	麻酔・集中治療科	科長	35 年	標榜診療科：麻酔科
里見 絵理子	緩和医療科	科長	30 年	標榜診療科：緩和ケア内科
松岡 弘道	精神腫瘍科	科長	23 年	標榜診療科：精神科
楠本 昌彦	放射線診断科	科長	39 年	標榜診療科：放射線科
井垣 浩	放射線治療科	科長	30 年	標榜診療科：放射線科
谷田部 恭	病理診断科	科長	30 年	
山本 昇	先端医療科	科長	34 年	標榜診療科：内科
山本 昇	臨床研究支援部門	部門長	34 年	
平田 真	遺伝子診療部門	部門長	23 年	
松井 啓隆	臨床検査科	科長	30 年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

○薬剤師レジデント研修

研修の主な内容：がん薬物療法に関連する病院薬剤業務の基本的技術を修得するとともに、臨床および基礎の幅広い知識と技術の修得を図り、がん医療に精通した薬剤師を養成することを目的としている。研修期間は3年で、指導薬剤師のもとに薬剤業務や病棟業務に従事する。

研修の期間：3年間

研修の参加人数：15名(2025年3月31日の在籍者数)

○がん専門修練薬剤師研修

研修内容：国立がん研究センター薬剤師レジデント研修を修了した者、またはこれに相当する学識を有し、3年以上の臨床経験を有する者を対象とし、がん患者の薬学的管理介入や臨床薬学研究に必要な高度先進的な知識と技術を有するがん診療の専門薬剤師を育成することを目的としている。研修期間は2年で、指導薬剤師のもとで高度な知識・技術の習得・開発に努め、患者の臨床薬剤業務に従事する。

研修期間：2年間

研修の参加人数：1名(2025年3月31日の在籍者数)

○医学物理士レジデント研修

研修内容：放射線治療に必要な高度先進的な知識と技術を有する医学物理士の養成、また、チーム医療を実践する医学物理士を養成することも目的としている。研修期間は3年で分野毎に到達目標と教育プログラムの指針が定められている。また分野毎に、常

勤の認定医学物理士がレジデントの指導者となり計3施設で研修を行う。

研修期間：3年

研修の人数：4名(2025年3月31日の在籍者数)

○診療放射線技師レジデント研修

研修内容：より高度で専門的ながん教育を提供し、研究もできる、がん医療に精通した診療放射線技師を育成することを目的としている。研修期間は3年で、基本的なカリキュラムは両キャンパスにて共通項目として構成され、2年間で充たす。両キャンパス交流研修を3か月間設定し、各キャンパスにのみ設置された医療機器の基礎技術を学ぶ機会も用意している。3年目は、専門性や進路を選択する期間と位置付けられ、各コースにおける特色を生かしたカリキュラムにて研修を行う。

研修期間：3年

研修の人数：4名(2025年3月31日の在籍者数)

○がん専門修練診療放射線技師研修

研修内容：国立がん研究センター診療放射線技師レジデント研修を修了した者、またはこれに相当する学識を有し、3年以上の臨床経験を有する者を対象とし、多彩なコース設定から応募者自身が選択した分野で2年間修練することでより高度な専門性を養い、グローバルで輝く、がん診療の核となり得る次世代の人材育成を行うことを目的としている。研修期間は2年で、指導診療放射線技師の下、より専門性の高い放射線診療業務や研究に従事する。

研修期間：2年

研修の人数：0名(2025年3月31日の在籍者数)

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

○研修の主な内容

- ・任意研修制度・受託実習制度という研修制度があり、他の医療機関に所属する医療関係者の受け入れを行っている。対象は医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、栄養士等であり、医学生や看護学生等の受け入れも行っている。

○研修の期間・実施回数

- ・研修機関：1日から1年間と幅広く設定し、延長（最長で1年）の可能である。

延長の更新回数については、制限を設けていない。

○研修の参加人数

- ・2024年度で新たに受け入れた医療従事者は25名（医師：96名、歯科医師：6名）である。

その他、学生等の受け入れを395名行った。

（注）1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

（注）2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 瀬戸 泰之	
管理担当者氏名	医療安全管理部：大橋 健、高難度新規医療技術等管理室：松井 喜之、薬剤部：橋本 浩伸、放射線技術部：谷崎 洋、臨床検査部：山崎 茂樹、統括事務部：長島 清、医事管理部：長島 清、研究管理部：後澤 乃扶子、人材育成センター：堀之内 秀仁、臨床工学部門：入江 景子	

			保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医事管理課	・診療に関する患者記録は全て（入院、外来問わず）一患者一ファイル方式で管理。 (1) 診療録等は永久保存 (2) 内視鏡フィルム、10年保存 (3) フィルム（フィルム保存は無く全てPACS管理） (4) 病理、細胞診プレパラート、20年保存 ・診療録の院外への持ち出しについては、原則禁止。例外的に持ち出す際は、リスクレベル評価に応じたセキュリティ対策を講じる。
		各科診療日誌	医事管理課	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	医事管理課	
		看護記録	医事管理課	
		検査所見記録	医事管理課	
		エックス線写真	放射線技術部	
		紹介状	医事管理課	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事管理課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	・保管を管轄する各部門が、部門システムあるいは台帳等により管理。
		高度の医療の提供の実績	医事管理課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究管理課	
		高度の医療の研修の実績	専門教育企画室	
		閲覧実績	総務課、医事管理課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事管理課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部、医事管理課	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	・保管を管轄する各部門が、部門システムあるいは議事録や台帳等により管理。規定遵守による体制維持に努めている。
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御室	・保管を管轄する各部門が、部門システムあるいは議事録や台帳等により管理。規定遵守による体制維持に努めている。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室 臨床検査部門 臨床工学部門 放射線部門	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床検査部門 臨床工学部門 放射線部門	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床検査部門 臨床工学部門 放射線部門			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床検査部門 臨床工学部門 放射線部門			

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	高難度新規医療技術等管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	高難度新規医療技術等管理室
		監査委員会の設置状況	医療安全管理室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室
		職員研修の実施状況	医療安全管理室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室
		管理者が有する権限に関する状況	医療安全管理室
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	医療安全管理室
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	医療安全管理室

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	総務課長、医事管理課長	
閲覧担当者氏名	文書管理係長、入院外来係長	
閲覧の求めに応じる場所	総務部総務課、医事管理部医事管理課	
閲覧の手続の概要 『独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成13年12月5日法律第140号)』及び『独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律施行令(平成14年6月5日政令第199号)』に基づき以下の当センター規定に則り閲覧を含む開示手続きを行う。 ・国立研究開発法人国立がん研究センター情報公開手続規程(平成22年4月1日規程第49号) ・国立研究開発法人国立がん研究センター情報公開手数料規程(平成22年4月1日規程第48号) ・国立研究開発法人国立がん研究センター情報公開審査基準(平成22年4月1日規程第50号) 具体的には、総務部総務課を情報公開窓口として、以下の手続きを行う。 ①開示請求者より、法人文書開示請求書(規定様式)の提出と手数料の支払いが行われる。 ②①に不備がある場合は、補正依頼公文(規定様式)を送付する。 ③請求文書の特定と開示可否の審議を行い、審議結果に応じて、法人文書開示決定通知書又は法人文書不開示決定通知書を開示請求者に送付する。 ④請求の内容により、期限の延長又は事案の移送が必要な場合は、それぞれ規定に基づき通知公文を開示請求者に送付する。 ⑤③を受け、開示請求者が開示実施を希望する場合は、規定の実施方法等申出書を提出する。 ⑥⑤の実施方法等申出書及び開示実施に係る規定手数料を受け、文書の開示を実施する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： - 令和5年4月1日改訂 1) 医療に係る安全管理のための基本的な考え方 2) 医療に係る安全管理のための組織及び委員会等に関する基本的事項 3) 医療に係る安全管理のための職員研修 4) 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策 5) 医療事故等の影響度分類レベル 3b 以上またはこれに準ずる重大な有害事象発生時の対応に関する基本方針 6) 医療従事者と患者との間の情報共有に関する基本方針 7) 患者からの相談への対応に関する基本方針 8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（ 有・無 ） ・ 開催状況：年 14 回 ・ 活動の主な内容： 医療安全管理室へ報告される全てのインシデント・アクシデント事例、有害事象例について、月1回医療安全管理部会で原因分析や再発防止対策、業務改善事項の検討をしている。その後、病院長が委員長である医療事故等防止対策委員会（月1回）に報告・承認後、決定事項を医療安全担当副院長から、リスクマネージャー会議（月1回）にてリスクマネージャーに伝達し、所属職員に周知徹底を図っている。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の内容（すべて）： ＜全職員研修：医療安全講演会＞ - 第1回「患者参画が大切な訳」R6. 7. 4～Web開催（eラーニング） - 第2回「医療安全への患者・市民参画～ともにつくろう、医療安全～」R6. 11. 6 対面開催、R6. 11. 11～Web開催（eラーニング） * 年2回受講率 100%	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備（ 有・無 ） 医療安全管理体制の確立・医療安全管理のための具体的方策及び医療事故発生時の対応方法等について、医療事故等防止安全管理規程を定め、医療事故等防止対策委員会、医療安全管理部会を設置。また、各診療科・各看護単位・各部門にリスクマネージャーを配置している。インシデント・アクシデントが発生した場合は、電子カルテにログインして起動するインシデント報告分析支援システム（略称CLIP；有害事象報告を含む）を通じて、各部署より医療安全管理室に報告される体制。	

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - リスクマネージャー会議での説明・指示・伝達（月1回）
 - インシデント防止目標の提示（隔月）
 - 医療安全ニュースの発行（月1回）
 - 職員全員参加の研修会の実施（年2回）
 - 医療安全ポケットマニュアル（約160頁からなり、全職員携行を義務付）の年1回の更新

○過去3年間の報告件数（インシデント・アクシデント）：

令和 6年度 5999件
令和 5年度 5534件
令和 4年度 6223件

○過去3年間の報告件数（診療関連重篤有害事象）：

令和 6年度 954件
令和 5年度 1099件
令和 4年度 1003件

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 感染対策の基本的考え方 2. 院内感染対策体制の整備 院内感染対策委員会、感染制御室、感染対策チーム、感染制御室長、院内感染管理者、感染制御室専任医師、抗菌薬適正使用支援チーム、抗菌薬適正使用支援者の設置について 3. 職員に対する研修に関する基本方針 4. 抗菌薬の適正な使用を目的とした職員に関する基本方針 5. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 6. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 7. 患者等への情報提供と説明に関する基本方針 8. その他院内感染対策推進のために必要な基本方針 9. その他抗菌薬適正使用推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
・ 活動の主な内容： 1. 院内感染発生動向を監視し、効率的な院内感染対策が実施できるように、感染制御室及び感染対策チームの活動支援を行う。 2. 感染制御室、感染対策チームで検討した課題や提案された事項について審議、決定を行う。 3. 新型コロナウイルス感染症の対応について、定期的にマニュアルを改訂し、周知、指導する。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2回
・ 研修の内容（すべて）： <全職員研修> 「院内感染対策講演会」 第1回（令和6年6月11日）「気になるウイルス感染症～感染対策の視点から～」 講師：感染制御室長 小林 治 先生 第2回（令和6年11月5日）「感染症のパンデミックや自然災害への備え」 講師：長崎大学大学院 泉川 公一 先生 延べ受講人数：1804名 受講率：第1回100% 第2回100%（インターネット視聴・DVD視聴を含む） <その他> 実技確認の機会として、「感染対策実技トレーニング」合同実施10回、出張・個別実施18回	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無） - 院内感染上重要な病原体の検出時には、微生物検査室から担当医とともに感染制御室に電話連絡され、患者の状態を把握後、当該部署に必要な対応について指示している。 - 病院長には週に2回、感染制御室長もしくは院内感染管理者が院内の状況を日報として報告している。これらをまとめ毎月の感染対策委員会に報告している。 - アウトブレイクが疑われた場合は、速やかに調査・状況把握を開始し、必要に応じて臨時院内感染対策委員会を招集するとともに、全職員対象メールやリスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議を通じて院内全体に対応を周知する体制としている。 - 重大なアウトブレイク発生時などには、保健所など外部機関に報告・相談し、速やかな終息および再発防止を図る体制となっている。 - 新たな感染症発生時には、臨時委員会の開催や講演会を実施している。 ・ その他の改善のための方策の主な内容：	

- 流行性ウイルス性疾患について職員におけるワクチンポリシーを整備し、抗体検査結果およびワクチン接種状況を把握するとともに、抗体価が基準を満たさない職員に対するワクチン接種を推進している。
 - インフルエンザワクチン、新型コロナウイルスワクチンの職員接種を推進している。
 - 感染症診療に関するコンサルテーション体制を整備するとともに、血液培養陽性例は全て感染症医が治療内容を確認し、必要に応じて介入している。
- 抗菌薬の使用状況を把握し適正使用を推進している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☒ 有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
・ 研修の主な内容： - がん患者の血糖管理 知識編 - がん患者の血糖管理 薬剤編 - 適切な麻薬管理について - オキシコドン製剤 がん疼痛と非がん性疼痛の使い方の違い	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	・ 手順書の作成 (☒有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： - 医薬品の適正な購入及び各種規制を遵守した適正な管理 - 病棟常備薬の適正な配置と保管・管理状況の把握および指導 - 外来及び入院患者の処方薬の調剤及び指導 - 外来及び入院患者への医薬品の使用 - 医薬品情報の収集・管理・提供 - 持参薬鑑別による情報収集と情報共有 - 他医療機関との医薬品使用に関する情報の共有と連携医薬品の安全使用に関する教育・研修の実施
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☒有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：無 ・ その他の改善のための方策の主な内容： - 病棟薬剤師による各病棟への医薬品安全使用に関する情報周知の徹底 - 安全性速報（ブルー・イエローレター）の院内周知の徹底 - 薬剤部HP・コンテンツの改善 - 投与時に注意が必要な薬剤に対する注意喚起を目的とした一覧の作成及び院内周知 - 複数規格のある薬剤の規格の取り違え防止を目的とした表示名称の工夫 - 同種同効薬の採用に際し、安全使用を目的として力価・包装等の院内資料を作成し配布 - ハイリスク薬に対する注意喚起のため、定義と注意事項を周知 - 適応外使用、未承認薬使用の把握及び申請における管理 - 抗がん剤レジメン審査の管理 - 院外薬局との医薬品使用に関する情報共有と連携の実施 - 薬機法に基づく医薬品の副作用報告について院内に制度の周知を実施 - 全ての注射薬抗がん剤の調剤及び投与はCSTDを使用 - 術後疼痛管理チームを組織して医薬品の適正使用を推進

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

(放射線技術部)

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☒ 有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年185回
研修の主な内容： 新規医療機器設置後、定期点検後ならびにバージョンアップ後に 添付文書に基づく仕様方法、注意点、変更点、管理方法等について研修を実施	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
- 医療機器に係る計画の策定 (☒ 有・無) - 機器ごとの保守点検の主な内容： 職員による日常点検の実施と不備事象の適宜報告 機器メーカーによる保守・定期点検の計画・実施・報告の実施	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医療機器に係る情報の収集の整備 (☒ 有・無) - 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： PMDAやメーカー、国立病院機構からの情報周知など - その他の改善のための方策の主な内容： 機器メーカーによる定期点検の実施、職員による日常点検の実施と不備事象の適宜報告 修理・事故原因報告に基づいた機器・ソフトの改修ならびにバージョンアップ 業務マニュアルの定期的な改訂 使用・運用マニュアルの定期的な改訂 定期的な勉強会の実施と自己研鑽の推奨 定期的なインシデント報告会、危険予知トレーニングによる医療機器の安全使用についての検討 医療安全管理室と連携し、関連職員（医師、看護師、看護助手）へのMRI磁場体験およびeラーニングの実施 放射線治療に至るまでの全体的な行程を理解する放射線治療行程研修を開催	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

(臨床検査部門)

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☒ 有 ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 35 回
・ 研修の主な内容： 新規検査機器導入時の院内研修、検査機器の保守点検・消耗品交換・不具合発生時の対応等に関するメーカー研修などを実施。入職者に対する伝達講習。 1) 新規医療機器の取り扱い説明 7回 2) 保守点検・消耗部品の交換 6回 3) 新規採用者における各装置の操作マニュアル、運用マニュアルによる研修 22回	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (☒ 有 ・ 無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： ISO 15189:2022規格に準じたメーカーによる定期点検計画の実施・作業報告書の保管 職員または業者による保守・日常点検、定期点検の実施および実施記録の保管	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☒ 有 ・ 無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) PMDA、メーカー、国立病院機構からの情報収集 2) 日常点検の実施 3) 定期点検の実施 4) 機器操作手順書の整備・改訂・周知 5) 日当直業務実施のためのトレーニング 6) 精度に関する精度管理委員会の定期開催	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

(臨床工学部門)

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☒ 有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年134回
・ 研修の主な内容： 人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器等の特定保守管理機器を中心に研修計画を立て、使用方法、管理方法、注意事項、不具合対応について実施。新規導入医療機器についても導入時、バージョンアップ後等必要に応じてもれなく実施。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (☒有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 除細動器、人工呼吸器、血液浄化装置、電気メス、シリンジ・輸液ポンプ、モニタ類等について、機器購入時に計画を立て、機器管理システムにて管理。設置場所職員、臨床工学技士またはメーカーによって日常点検、定期点検を実施	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☒有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：無 ・ その他の改善のための方策の主な内容： PMDAやメーカー、医療安全管理室より情報を収集し、勉強会（説明会）の開催、使用マニュアル改訂、現場管理者へ通知、各会議等で周知して改善している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	☒ ・無
・責任者の資格（☒医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全管理室の室長を担い、医療事故等防止対策委員会には副委員長として出席している。 また、医薬品安全管理責任者と医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者から、報告を受ける体制が構築されている。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☒ （4名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品情報の収集・管理・提供は主として薬剤部医薬品情報管理室にて行っており、周知は定期的（月1回）な医薬品情報誌の発行、医薬品集の発行（年1回）、タイムリーなお知らせ文書の発行等を、印刷物・メール・イントラネット掲載等を利用して行っている。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 院内で使用する医薬品は薬剤部で一元管理する体制をとっており、医薬品の適応外使用については、薬事委員会（適応外使用小委員会）で審査・報告等を行い、病院長の許可を得て使用をしている。未承認医薬品の使用については、高難度新規医療技術等評価委員会（未承認薬使用小委員会）で審査・報告等を行なう体制としている。また、薬剤部では、未承認医薬品使用、適応外使用、禁忌の使用について、所定の手続きを行っていない処方例について、薬剤師が把握した情報を集約する体制としている。 ・担当者の指名の有無（☒・無） ・担当者の所属・職種： （所属：薬剤部，職種 薬剤師） （所属：各診療科，職種 医師「各診療科長」） （所属：看護部，職種 看護師長） （所属：臨床検査科，職種 臨床検査技師長） （所属：放射線技術部，職種 診療放射線技師「技術部長」） （所属：輸血管理室，職種 医師）	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	☒ ・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する	

規程の作成の有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 ： 全死亡症例における最終治療に関する患者説明状況調査 全有害事象報告における当該事象に関する事前の患者説明状況調査 上記調査結果から対応が必要と判断した診療科に対し、改善指導の実施及び説明文書の新規作成と改訂依頼している。
--

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	☒ 有 ・ 無
・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 診療情報管理係において、退院時要約を含む診療録等の確認・管理を行い、診療統計の一部の算出を行っている。 診療情報管理委員会において、診療録や入院診療計画書の監査を実施している。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	☒ 有 ・ 無
・ 所属職員：専従（ 8 ）名、専任（ ）名、兼任（ 7 ）名 うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 5 ）名 うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名 うち看護師：専従（ 4 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名 うち事務員：専従（ 1 ）名 うち診療情報管理士：専従（ 1 ）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容： 1） 医療安全に関する現場の情報収集及び実態調査 （定期的な現場の巡回・点検、理解度の確認、マニュアルの遵守状況の点検） 2） 医療事故防止対策マニュアルの作成及び点検、見直し 3） 部門別に作成されているマニュアルの確認及び見直しの提言 4） インシデント・アクシデント・有害事象報告 （インシデント・アクシデント・有害事象事例を体験した医療従事者が、その概要を記載した文	

書をいう。以下同じ)の収集、保管、分析、分析結果などの現場へのフィードバックと集計結果の管理、具体的な改善策の提案・推進とその評価(改善策の周知確認)

- 5) 医療安全管理に関する最新情報の把握と職員への周知(他施設における事故事例の把握等)
- 6) 医療安全に関する職員への啓発、広報(月間行事の実施など)
- 7) 医療安全に関する教育研修の企画・運営、教育研修の理解度確認
- 8) 医療安全管理に係る連絡調整

※モニタリング実施状況:

医療安全管理指標として11項目(「インシデント・アクシデント報告件数」「有害事象報告件数」「インシデント・アクシデント同事例報告割合」「インシデント・アクシデントレベル別割合」「インシデント・アクシデント・有害事象職種別件数」「インシデント・アクシデント表題別件数」「患者誤認事例件数」「術後30日以内死亡患者数」「がん薬物療法後30日以内死亡患者数」「放射線診断・病理診断レポート未開封割合」「抗がん薬血管外漏出割合」等)についてモニタリングしている。

医療安全ポケットマニュアルの携帯状況、インシデント・アクシデント・有害事象の報告方法や緊急報告が必要な対象の確認、医療事故防止対策マニュアルの所在や内容の確認、医療安全ニュースやリスクマネージャー会議の周知内容、緊急コールの音の確認、医療事故調査制度で報告すべき事案について、内部通報窓口と通報対象、有害事象報告基準(医師)、口頭指示の入力方法(看護師)、処方カレンダー運用マニュアル(薬剤師)等について、部署ラウンドで職員へ確認している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数(14件)、及び許可件数(14件)
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無(☒ 有 ・ 無)
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無(☒ 有 ・ 無)
- ・ 活動の主な内容:

技術提供の適否を決定する部門である、高難度新規医療技術等管理室が高難度新規医療技術の導入申請を受け付けている。部門内の関係者で確認し、高難度新規医療技術評価委員会に申請技術の導入適否に関して意見徴取を行う。その意見に基づき、高難度新規医療技術等管理室の室長が申請技術の導入可否、実施期間、モニタリング症例数を決定する。導入した技術については、実施前と実施後に報告を申請診療科から部門へ行い、実施状況について電子カルテ監視とモニタリングを行っている。

実施前には当院での実施症例数について説明、看護師を同席しているか等、実施後には手術記録・退院サマリの内容、有害事象が発生していないか等のモニタリングを実施し、適切な対応ができていない場合には指導している。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関する委員会の事務局業務及び委員会の検討結果の通知に対して承認・非承認を決定し病院長に報告する。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 363 件（令和 6 年度）
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：
インシデント・アクシデント報告：令和 6 年度 5999 件
有害事象報告：令和 6 年度 954 件

- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

入院患者が死亡した場合は、医師が死亡日時、治療及び死亡前の状況、治療中及び最終治療日から 30 日以内に発生した死亡の有無を遅滞なく報告し、医療安全管理室で内容に問題がないか毎日カルテレビューしている。また、医事管理課から医療安全管理室へ、1 週間毎に全死亡患者リストを報告する仕組みもある。死亡患者リストは、医療安全管理室で最終治療に関する説明・同意書の有無や診療内容の確認をし、病院長と複数の副院長によるカルテレビュー結果を医療安全管理室で確認し、再調査となった場合、診療科への確認と医療安全管理部会での分析・対策立案を経て、医療事故等防止対策委員会へ報告・審議となる。

重大事例については、医療安全管理室での説明・同意書の有無や診療内容を確認し、必要時は診療科に診療経過報告書を提出してもらった上で、医療安全管理部会での分析・対策立案を経て、医療事故等防止対策委員会へ報告・審議となる。

医療事故等防止対策委員会にて承認された対策は、医療安全担当副院長からリスクマネージャー会議にて伝達し、職員に周知徹底を図る体制となっている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（☒（病院名：東海大学附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒（病院名：東海大学附属病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況
技術的助言なし

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
安全管理に係る相談窓口として、相談支援センターを設置している。
患者へは院内ポスター提示、リーフレット設置等により周知している。複雑な事例においては患者医療対話推進室で対応する体制もある。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
外部監査委員会での指摘事項と是正内容、報告書管理体制加算の施設基準、特定機能病院承認要件（内部通報窓口や外部監査委員会の設置、高難度新規医療技術等の導入プロセス等）について、令和6年度第1回医療安全講演会で全職員へ周知した。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・研修の実施状況
管理者：公益財団法人日本医療機能評価機構主催
「2024年度 特定機能病院管理者研修（継続 第2回・6時間）」2024年12月9日
医療安全管理責任者：公益財団法人日本医療機能評価機構主催

「2024 年度 特定機能病院管理者研修（継続 第 3 回・6 時間）」2024 年 12 月 12 日

医薬品安全管理責任者：公益財団法人日本医療機能評価機構主催

「2024 年度 特定機能病院管理者研修（継続 第 2 回・6 時間）」2024 年 12 月 9 日

医療機器安全管理責任者：公益財団法人日本医療機能評価機構主催

「2024 年度 特定機能病院管理者研修（継続 第 6 回・6 時間）」2025 年 2 月 14 日

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

病院機能評価（一般病院 3）3rdG:Ver. 2.0

受審日：2023 年 10 月 25 日～ 10 月 27 日

認定日：2024 年 5 月 10 日（条件付認定 6 ヶ月）

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

1. 規程に沿った説明文書の改訂をすみやかに完了させてください。
2. 臨床倫理委員会による倫理的課題の把握・検討および新たな倫理指針の作成を計画どおり確実に実施してください。
3. TQM センター運営会議の統括による、評価指標を活用した診療の質向上活動を計画どおり確実に実施してください。
4. 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等について、新たに定めた方法での患者説明とモニタリングを継続的に実践してください。
5. 鎮静に関する患者説明、全身状態監視の担当医師について、貴院が補充的な審査で提示した改善策を確実に実践してください。

公表については、病院機能評価の審査結果報告書を病院ホームページに掲載している。

・ 評価を踏まえ講じた措置

2025 年 10 月頃の改善審査に向けて、C 評価 5 項目について改善措置の実施に取り組んでいる。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準 ・ 基準の主な内容 (1) 病院において、以下のいずれかの業務に従事した経験を有し、医療安全管理に関する十分な知見を有するとともに、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有していること ア 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務 イ 医療安全管理委員会の構成員としての業務 ウ 医療安全管理部門における業務 エ その他上記に準じる業務 (2) 当該病院内外において組織管理経験があり、高度の医療の提供、開発及び評価等を行う特定機能病院の管理運営上必要な資質及び能力を有していること (3) 中央病院及び東病院の理念及び基本方針を十分に理解し、高い使命感を持って継続的かつ確実に職務を遂行する姿勢と指導力を有していること ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無) ・ 公表の方法：病院ホームページ
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ ☒ 無			
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有・無) ・ 公表の方法				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
・合議体の主要な審議内容 病院の運営の方針、中期計画、予算及び決算その他の病院の運営に関する重要な事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 病院運営会議の議事概要を作成し、病院全体に周知 内部サーバーへ掲載 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・公表の方法 病院ホームページ ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無） 規程上、議長が必要と認める者（外部有職者を含む）を病院運営会議に参加させることができるとしている。			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
瀬戸 泰之	○	医師	病院長
中釜 斉		医師	理事長
藤元 博行		医師	副院長
山本 昇		医師	副院長
大江 裕一郎		医師	副院長
楠本 昌彦		医師	副院長
吉本 世一		医師	副院長（併任：医療 情報部長）
金光 幸秀		医師	外科系部門長
奥坂 拓志		医師	内科系部門長
佐藤 哲文		医師	麻酔・集中治療科長
土田 敬明		医師	広報企画室長
谷崎 洋		診療放射線技師	放射線技術部長
山崎 茂樹		臨床検査技師	臨床検査技師長
橋本 浩伸		薬剤師	薬剤部長
小林 望		医師	検診部門長
關本 翌子		看護師	看護部長
向井 まさみ		事務	副医療情報部長
入江 景子		臨床工学技士	臨床工学室長

尾崎 修平		医師	リハビリテーション室長
樋山 一郎		事務	統括事務部長
佐藤 俊幸		事務	財務経理部長
柳沢 直樹		事務	人事部長
須田 俊孝		事務	理事長特任補佐(企画経営部長)
宇内 健治		事務	医事管理課長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有・☒無 ）
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容
理事会規程：病院の運営に関する事項が審議される際には、病院長は理事会に出席し、意見を述べることができる。
組 織 規 程：院長は、病院の事務を掌理する。また、特定機能病院としての機能を確保するために必要な事項に関して、理事長に意見を述べる旨規定。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
組 織 規 程：副院長は、院長を助け、病院の事務を整理する。
企画経営部を設置し、センターの業務の企画及び調整に関すること、センターの経営に関することの事務をつかさどる旨規定。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
特になし。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					☒ 有・無
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： ● 医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療事故等防止対策委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、その他監査委員会として必要と認めるものの業務の状況について病院長、その他監査委員会として必要と認めるものから報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施する。 ● 必要に応じ、理事長又は病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見表明を行う。 ● 上記に掲げる業務について、その結果を公表する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ ☒有・無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ ☒有・無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ ☒有・無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ ☒有・無 ） ・ 公表の方法：病院ホームページ					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
山本 修一	地域医療機能 推進機構 理事 長 千葉大学大学 院医学研究院 眼科学前教授 千葉大学医学 部附属病院 前病院長	○	特定機能病院の 前管理者であり、 医療に係る安全 管理に関する識 見を有する	有・ ☒ 無	1
相馬 孝博	千葉大学医学 部附属病院 医療安全担当 副院長／医療 安全管理部長		特定機能病院の 医療安全管理部 門に所属し、医療 に係る安全管理 に関する識見を 有する	有・ ☒ 無	1
川崎 志保理	順天堂大学医 学部		特定機能病院の 医療安全管理部	有・ ☒ 無	1

	心臓血管外科学・病院管理学 客員准教授		門で従事した経験があり、医療に係る安全管理に関する識見を有する		
田島 優子	さわやか法律事務所 弁護士		弁護士として政府の諮問機関等医療問題に関わっており、医療に係る法律に関する識見を有する	有・ ☒ 無	1
桜井 なおみ	一般社団法人CSR プロジェクト 代表理事		患者団体の代表者であり、医療を受ける者として、医療安全管理について識見を有する	有・ ☒ 無	2
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・ 体制の整備状況及び活動内容
 - ・ 理事会への監事出席
 - ・ 監査室による監査
 - ・ 会計監査人による監査
 - ・ コンプライアンス室の設置
 - ・ 法令違反行為等に関する通報又は相談の受付窓口を内部・外部に設置

- ・ 専門部署の設置の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（ 有 ・ ☒ ）
- ・ 公表の方法

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 ・ 理事会、執行役員会及び内部統制推進委員会・リスク管理委員会の整備、開催。 ・ 病院長はこれらの理事会等に出席。 ・ 会議体の実施状況（ 年12回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒有・無 ）（ 年12回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・☒無 ） ・ 公表の方法			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 通報件数（年 1 件） ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 周知の方法 職員研修（新採用オリエンテーション）、医療安全ポケットマニュアル掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ● 提供している医療や治験実施状況、研究成果や新たな取り組み等について、最新情報を随時ホームページで公開している。 ● 動画やSNSも積極的に活用し、科学的根拠に基づく診断・治療・療養について広く情報提供を行っている。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ● 主たる悪性腫瘍に対して内科・外科間の多職種カンファレンスの実施 ● 特化した治療（放射線治療、放射線診断、内視鏡センター、通院治療センター、患者サポートセンター等）と各診療科の連携 ● 転移がん、希少がん等の診療科間における協力が必要な場合の連携 ● 特殊外来（家族・遺族ケア外来、禁煙外来、遺伝相談外来）の設置 ● 多職種による医療チーム（褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム、呼吸ケアチーム、術後疼痛管理チーム、認知症ケアチーム、感染制御チーム、医療安全管理チーム）の配置	

令和 7 年 9 月 29 日

開設者名 国立研究開発法人国立がん研究センター
理事長 間野 博行

標記について、医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 20 第 6 号ロ及び第 7 号ロの規定に基づき、次のとおり提出します。

1 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率又は紹介率の算出率の平均値		逆 紹 介 率
算 出 根 拠	紹 介 率 A：紹 介 患 者 の 数 B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数 C：救急用自動車によって搬入された患者の数 D：初 診 の 患 者 の 数	99. 7 % 9,461人 8,788人 0人 9,488人
		92. 6 %

2 紹介率及び逆紹介率向上のための基本方針と向上のための具体的な予定措置

As a result of the above, the Commission has concluded that the proposed transaction is not a "restructuring" under the Bankruptcy Code. The Commission's conclusion is based on the fact that the proposed transaction is not a "restructuring" under the Bankruptcy Code. The Commission's conclusion is based on the fact that the proposed transaction is not a "restructuring" under the Bankruptcy Code.

(注)「紹介率」又は「逆紹介率」のうち、承認要件を満たしていないものについてのみ記載すること。

3 年次計画

(1) 紹介率

計 画 期 間	平成・令和 年 月 日 ～ 平成・令和 年 月 日
年次目標紹介率	第 1 年度（平成・令和 年度）
	第 2 年度（平成・令和 年度）
	第 3 年度（平成・令和 年度）
	第 4 年度（平成・令和 年度）
	第 5 年度（平成・令和 年度）

(注)「紹介率」が、承認基準を満たしていない場合についてのみ記載すること。

(2) 逆紹介率

計 画 期 間	平成・令和 年 月 日 ～ 平成・令和 年 月 日
年次目標紹介率	第 1 年度（平成・令和 年度）
	第 2 年度（平成・令和 年度）
	第 3 年度（平成・令和 年度）
	第 4 年度（平成・令和 年度）
	第 5 年度（平成・令和 年度）

(注) 逆紹介率が、承認要件を満たしていない場合についてのみ記載すること。